

令和元年九月一日発行（毎月一回一日）  
書象 第六十七卷 第九号 通巻七六六号

# 書 系



私たちが「日本の書道文化」の  
ゴネス「書形文化遺産登録」を  
応援しています。

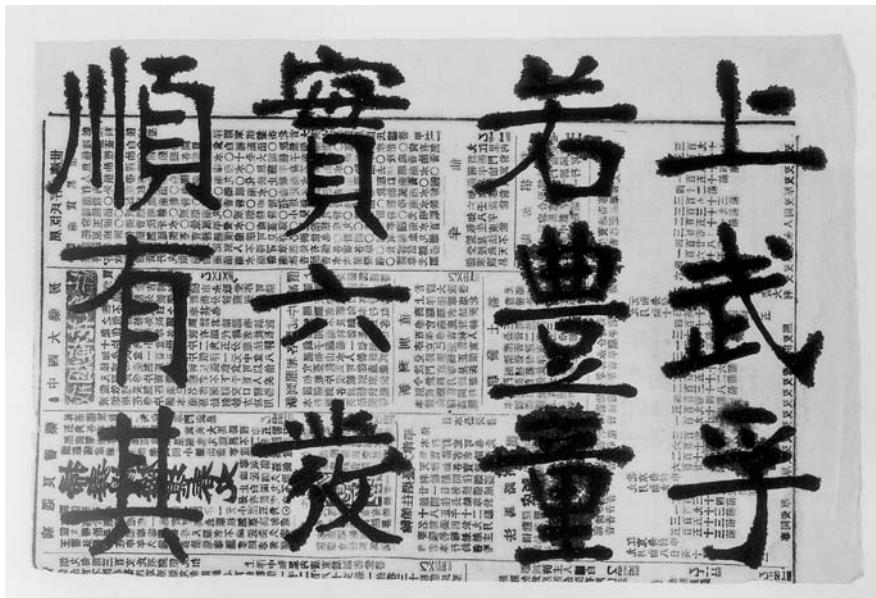
日本書道芸術協会

2019-  
9

## 卷頭言

### 書法のあざな

常任理事 魚住卿山



印刷物の裏を使った張廉卿の書  
紙は粗末でも、運筆には少しのゆるみもない

もう半世紀も前のことです。伊福部隆彦という評論家が、その著『書と現代』（木耳社）の中で、上條信山先生の作品を「精神の書」と評したことに対し、先生が大いに意気に感じられ、自己の書法のあり方を再認識されるといういきさつがありました。その論旨は、張廉卿（裕釗）、宮島詠士（大八）そして信山において、作品の表現はそれぞれに自我が發揮されたものだが、根底にある精神はゆるぎなく一貫しているというものであったと思います。

それ以来、上條先生は先師を敬う心を一層強くされ、表面的な表現に留まらず、張廉卿と宮島詠士において、いかなる精神的な情誼が交わされ継承がなされたか、その真相の解明に情熱を注がれるようになっていきました。

では、その「精神」とは何かということになります。これを具体的に古典で示すならば、集字聖教序、張猛龍碑、それに九成宮醴泉銘であり、書人をいうならば王羲之、歐陽詢、それに顏真卿になるでしょう。廉卿、詠士、信山の三家を碑学派として理解している人には、帖学派の祖になる王羲之が入るのは抵抗があるかもしれません、事実として廉卿、詠士ともに終生王羲之から離れたことはなく、同時に歐陽詢を究明し、顏真卿を信奉しました。上條先生の多彩な表現力も、これらの古典精神を徹底して踏まえることによって成し遂げられたものでした。

一方、心のあり方からいうならば、詠士の言によれば、廉卿は「振俗」の語を重んじたということです。これは俗念を振り切るの意で、脱俗、絶俗に通じます。これの逆の意が「俗に通ず」、また「媚を売る」になります。上條先生の作品は、常に清新であり、格調高く、凜としてあたりを払うものがありました。「書は品格がなくてはならない」。これは上條信山先生が常に私たちを戒められた言葉で、私たち書象会員が継承していかなくてはならない、書家としての定めであり、きずなであるといえるでしょう。この書法精神を全国書壇においていよいよ發揮し、書象会員であることの誇りを讃え合っていこうではありませんか。



歲々人移り改まる

9月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

楷書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

化度寺碑

上條信山先生書

・「不即不離」（即かず  
離れず）の原理を意  
識して書きたい。

# 悟聞妙微毛法

悟聞妙微毛法

悟。聞法（海之）微妙。毛

9月20日必着  
出品券を貼付

風  
鑑

風

鑑



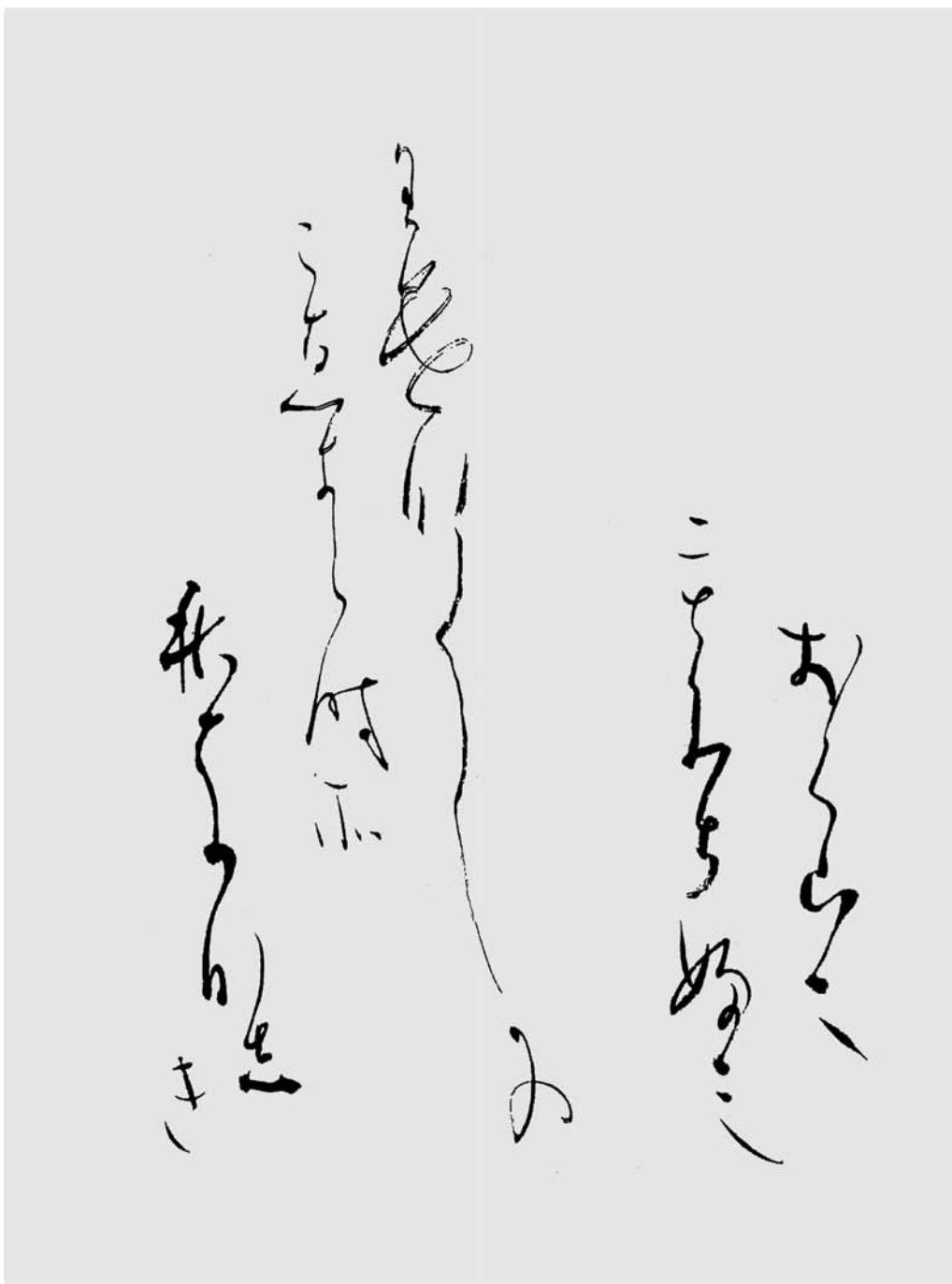
鑑…上部と下部を調和よく組み合わせたい。横画は右上りに統一し、最終画を水平にすることを安定させる。

風

風…構えのソリに留意する。二画目の折れは突き返すように書き、伸び伸びと。横画の方向や空間も気をつけたい。

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書



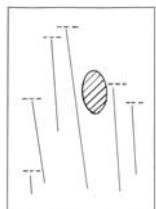
おく山に（二）も（毛）みちふ（婦）み（三）わ（王）け（遣）な（那）くしか（可）の  
こゑ（恵）き（支）く時ぞ（所）秋は（者）か（可）な（那）し（志）き

（猿丸大夫）

9月20日必着  
出品券を貼付

「わ（王）け（遣）な  
（那）」

「も（毛）みち



・全体構成は左図参照。  
書き出しで墨をつけ  
た後は五行目で墨継  
ぎを行い、潤渴の美  
しさを見せたい。  
各行の高さと傾きに  
留意して作品をまと  
める。

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書

・ 中心を揃えることばかりでなく、右サイドを揃えて流れを作  
る場合がある。

「れて」の右サイドを  
揃える。

「ゆく」の右サイドを  
揃える。

「は（者）るの」は中  
心を揃える。

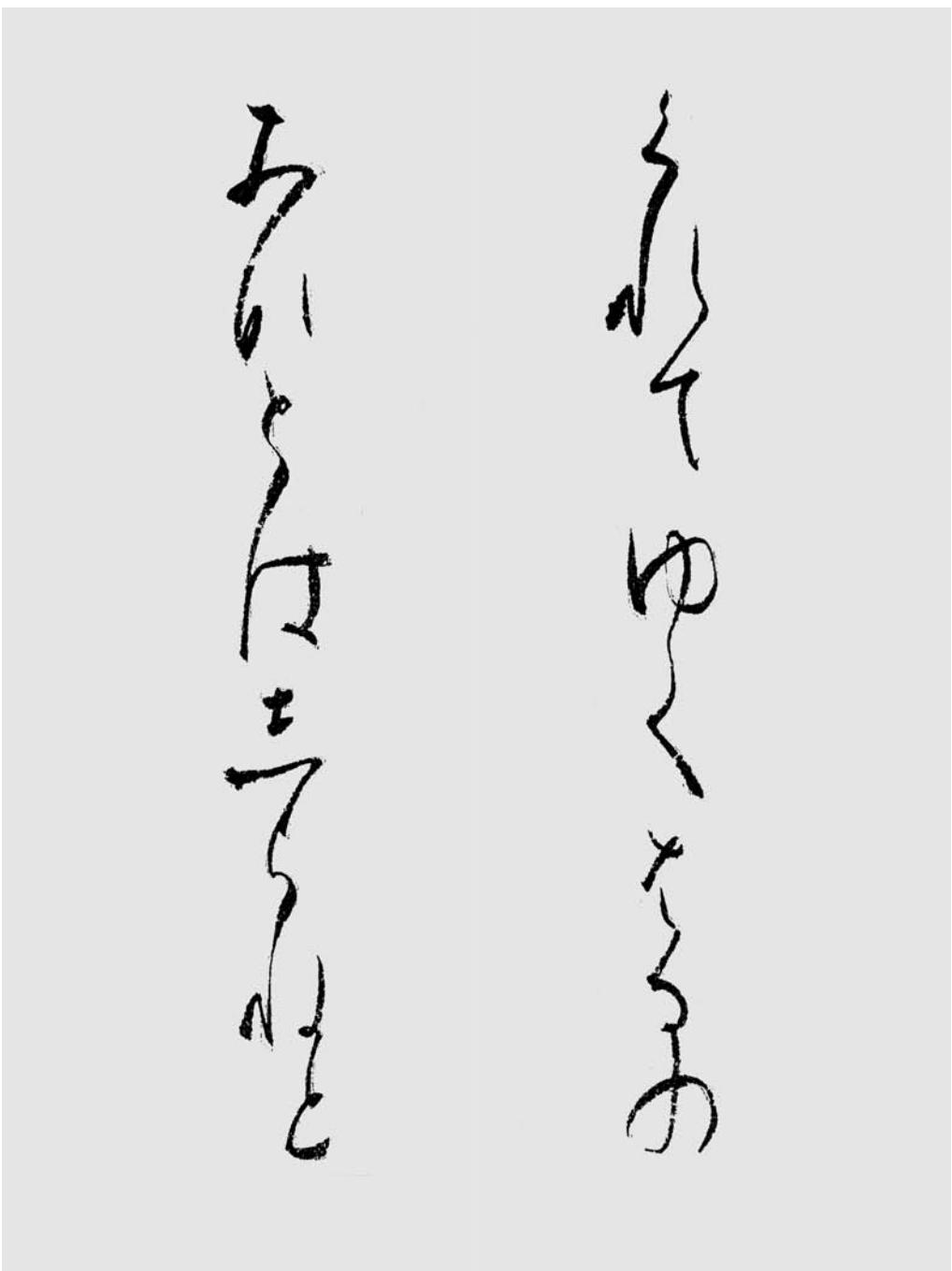
「みな（那）」は中  
心も右サイドも揃える。



「ねと」は右サイドを  
揃える。



く（久）れてゆくは（者）るのみな（那）とは  
し（志）らねど



研 究【研究】 「張猛龍碑」 臨書

篆文 正に（反る。）野畔 耕を譲り、林（中）



杉山曉雲先生書



今月のポイント 逆筆を強く当てる。字中の空間に留意したい。

※どちらか一体を出品してください。

9月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



済妙（集字）

山口啓山先生書



微涼満寺の秋  
（高青邱句）

漢 漢 满 寺 暑

言山

条幅隨意【条隨】

内藤望山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付

- ・「微」の中央は「山」と「耳」
- ・「涼」の「口」は「日」を使っている
- ・「涼」と「満」のサンズイに若干の変化をつける
- ・「秋」は偏と旁を反対にした形

阿水の界に、  
君じ還た旧好せむ。  
湘浜に帰。ト  
（高青邱句）

何れの日にか湘浜に帰つて  
君と還た旧好せむ（石濤句）

- ・漢字とひらがなが調和するべく、いざれも太く書くこと。
- ・中心線一貫を心掛けて力強く表現する。
- ・「湘浜」「帰」「還」はP.14 参照。

世間の榮

中学一年規定  
〔学毛〕

畠中高山先生書

元氣に強め必死

中学二・三年規定  
〔学毛〕

二瓶嶽風先生書

小学五年規定【学毛】

露崎玄峯先生書

太い  
陽一

小学六年規定【学毛】

中村龜山先生書

「涼」は『学年別漢字配当表』にありませんが、「涼しい」「涼む」と使われます。

涼秋  
いり

未来  
は  
と

小学三年規定  
〔学毛〕

田中珠光先生書

合向  
せ

小学四年規定  
〔学毛〕

荻田光山先生書

小学一年規定 【学毛】

竹内藍山先生書



小学二年規定 【学毛】

樋口玄山先生書



## 硬筆規定

一般規定【二硬】(師範・準師範・段位)

上條信山先生書

結婚とは夫婦二人が生涯をかけて協同制作する芸術であるからその作品を傑作にするには二人がたゆまぬ努力協力せしめねばならぬ(那)い。

結婚とは夫婦二人が生涯をかけて協同制作す

すき藝術であります。その作品を傑化します

に生えかたゆまぬ努力移かせねばならぬ。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶嶽風先生書

どうせ分かつてもらえない。人間って  
こんなものと思ひ込んでいる人の強  
さ、といふか。五本寛之のとば

中学規定【学硬】

杉山暁雲先生書

文化祭の準備が始まった。書道部は  
夏やすみ中に制作した作品に解説を

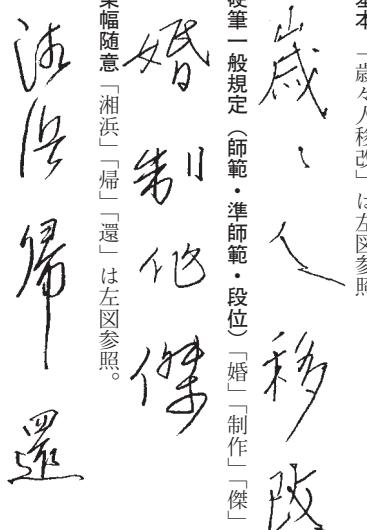
付けて展示する。

支部 學年  
氏名



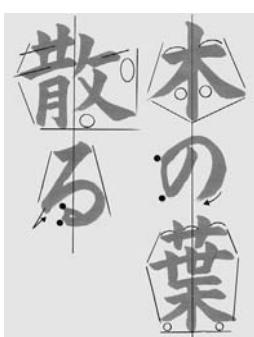
中学二・三年

学生部規定



・基本 「歳々人移改」は左図参照。

・硬筆一般規定 (師範・準師範・段位) 「婚」「制作」「傑」は左図参照。



中学一年

「元」の左は二画目と軽く接し、下部を揃えて安定させる。「氣」の横画は右上がりで等間隔に書く。「勉」の八画目は偏りの横部は右へ長めに。「強」は偏りの幅を意識し、空間が狭くならないように。また、「強」は横画の長さの違いに注意し、終画は伸びやかに払う。

「木」は左右の払いの角度に注意する。「の」は中心線上から書き始める。「葉」は四画目を最大幅にし、中心を意識する。終画は伸びやかに払う。

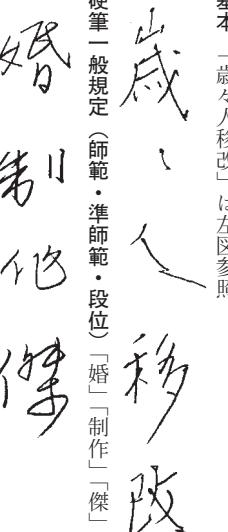
小・中学生随意課題【学隨】  
左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。  
出品券を貼付して下さい。

小 一・二 年 学	月
中 学	食
小 三・四 年 学	
尊 敬	

手本解説

・条幅隨意 「湘浜」「帰」「還」は左図参照。



知識には限りがある。想像

アインシュタイン

名前

小学三·四年规定【学硬】

恩田靜月先生書

二学期も早起きをして、

# きそく正しい生活ですご しましよう。

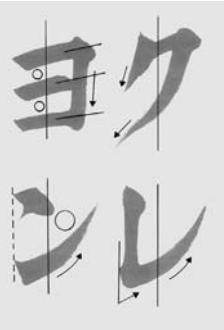
小学一・二年規定【学硬】

小室墨汀先生書

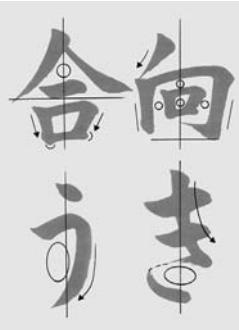
で	た	ね
く	し	こ
で	の	の
す	だ	タ
。	い	マ
なまえ	じ	は
支部	な	、
年	か	わ
だ きゅう		

※出品券を貼付  
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大きさたて18cmによこ7cm 小一・二課題→2.1cmのマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1cm巾の野線を引く。



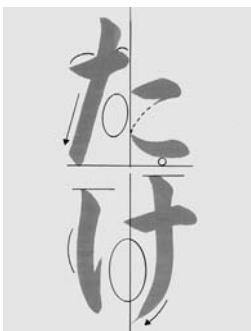
小学二年



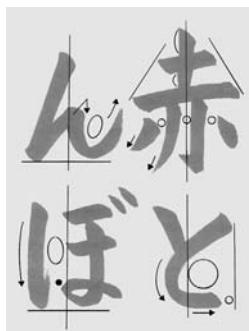
小学四年



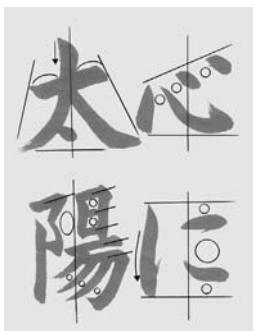
小学六年



小学一年



小学三年



小学五年

「ク」は一・二画目の終筆の方向に注意して払う。「レ」の縦画は中心より左側に書く。「ヨ」の横画はやや右上がりに等間隔に書く。「ン」の二画目は一画目の真下から書き出す。

「向」の一・二・三画目の縦画はやや内側に向ける。「き」の三画目はやや反らせて横画との交わり方に注意する。「合」は左右の払いを伸びやかに書く。「う」は縦長の字形と中心線を意識して書く。

秋は左右の払いの長短・角度に注意する。「風」は虫が下へ出ないよう書いて、「涼」はさんずいの幅を細めに書き、京とのバランスを図る。「し」は中心より左側から書き始める。

「た」は一、二画目の交わる位置と二画目の長さと角度に注意する。「け」は二画目と三角目の始筆の位置に気をつけ、最後は伸びやかに払う。

「赤」は三角印を最大幅にし、下部の占画は等間隔にする。「と」は二画目の始・終筆の位置関係に注意。「ん」は折れ角度や方向に気をつける。「ぼ」は二本の横画をほぼ同じ長さで書く。

「心の」二画目の下辺は水平に。には空間が狭くならないよう気にをつける。「太」の二画目は横画と交わるまでは垂直に。「陽」は偏旁の大、小、組み合わせに注意し、横が狭くならないように。

古典研究シリーズ ④⑤ 【古典】

曹全碑

後漢・中平二年（一八五年）

今月のテーマ

写実的臨書

中字（六字）：一回目

書き方

①文字数は六字。左記の中より  
六文字選んで書いて下さい。

②落款を入れて下さい。

③作品の表左下に、支部名と氏  
名、又は号を鉛筆で記入して  
下さい。古典研究の出品券を  
貼付して下さい。（編集部）

〈文字解説〉

〈ポイント〉

- ・横画の水平・平行・等分割を意識して書く。
- ・波磔をのびのびと払う。
- ・半紙六文字の文字構成を考える。



参考手本

上條信山書法（尚学図書）より



## 図録で見る “信山先生の書”

### 「上條信山近作展（一九六七年）」その5

#### ⑯豪氣突北斗（昭和四十三年）

この作品の縦画の角度に注視すると、ほとんどの画が左傾していることが分かる。文字の姿勢も左へ傾いている。  
まさに信山書法の根底は張猛龍碑にあることを示す作品である。  
この作品のような形式の作品は書象会では少ないが、信山流中字楷書には合っていると思う。研究して作品づくりをしてほしいと思う。

#### ⑯六言句対聯（昭和四十三年）



#### ⑯豪氣突北斗（昭和四十三年）



#### ⑰唐詩「送儲邕之武昌」



#### ㉑心高如山嶽

眼前千里水脚下萬重山  
大道無通塞獨行天地間  
(昭和四十三年)



㉑唐詩「送儲邕之武昌」（昭和四十三年）  
動きよく、流れよく、字形もすばらしい作品である。この作品から文字の字幅に注目してほしい。左右が接近している形、離れている形、上は広いが下は締っている字など多彩な造形である。狭い字の中にも余白を入れている。広い字であっても解放される力のみでなく引き寄せる力も残している。信山書法を書いて緊張感が出すぎる傾向がある人は、この作品を参考にしてほしい。

#### ㉑眼前千里水（昭和四十三年）

各行の向きは垂直ではなく、右下へ少しづれて下りて来ている。信山書法は横画が右上がりとなる。右上がりの横画に対応する縦画は左傾となり、字の姿勢も行の立て方も左傾が合うのである。右下へずらしながらの立て立てる試みでほしい。

#### ㉒心高如山嶽

この作品の構成は文字の頭を揃えて、下部は余白の広さと余白の形を面白く表現している。普通は五文字の中心を揃えるが、信山先生独創の作品表現である。文字の背丈を変えることにより、余白の姿が変わる面白さを体験してほしいと思う。

（理事長 市澤静山）

#### ㉒豪氣突北斗（昭和四十三年）

書かれた五文字の形状は極めて縦長である。横幅の二倍以上に及ぶ長さである。このような字形は古典ではない。信山先生の臨書の理論「表現的臨書」の形に主観を加える方法によれば創り出せる形である。古典の形をデフォルメあるいはデザインする意志で書いてみたものである。その学習から信山流を書くと新しい造形が生まれると思う。

第58回

# 書象展

会期 六月十三日(木)～二十三日(日)  
会場 国立新美術館二階C・D展示室



壁面を飾る作品群、今年も力作が揃う（第1室）



「第50回全国学生書道展」作品展示



市澤静山先生より俊英選抜五人展メンバーの紹介



高田墨山先生令夫人



特別展示 高田墨山先生遺墨展コーナー

# 授賞式

会場 国立新美術館二階展示室  
期日 六月二十三日(日)



「奨励賞」受賞の皆さん



「桜花賞」受賞の皆さん



なごやかな表彰式



「書象賞」受賞の皆さん



第49回全国学生書道展表彰式会場（3階講堂）

## 第58回展を終えて

展覧会部部長 萩田光山

個人的なことで恐縮ですが、担当責任者として四年目となり、マンネリや見落としがないことを祈りながら、初めて担当した時のような気持ちを忘れないよう心がけました。

おかげさまで、今年も約七千五百人の参觀者を得て、第五十八回書象展を盛会裡に終えることができました。これもひとえに出品者をはじめとする多くの皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

特に、今年は将来を見据え、いかに書を学ぶ人を育て、広げていくかを考え、併催している全国学生書道展の表彰式を実施し、優秀作品の展示も会場に入ってすぐの場所に変更してみました。予想を超える児童生徒、保護者、指導者にお集まりいただき、こうした方がよかつたと反省することばかりですが、盛大に実施できたことは次につながるものになったかと考へています。

また、子供のためのワークショップ「うちわに書いてみよう」の継続実施、支部長講習会では、「水書用筆等を使用した書写指導」を民間団体として初めて実施させていただきました。

さらに、副理事長によるギャラリートーク、学生展講評会、実技講習、五人展インタビュー、読売添削会は継続して実施しました。もりだくさんの行事でしたが、各催しともに多くの参會者を得ることができました。

そして、何より高田墨山先生の遺墨展示、急逝された虎井暁鐘先生の遺作は、多くの方々が信山流の生粹の有り様をあらためて実感し、自身の書作活動に大きな影響があつたものと考えています。

来年は、六十回記念展前の新しい企画を実施する予定になつております、係としては責任重大ですが、皆様からのご期待とご支援に応えられるよう、更に研鑽を積んで努めてまいります。

書壇から来場の主な先生方



日展監事 土橋靖子先生（右）



書道評論家 西嶋慎一様



日展理事 新井光風先生（左）



日展特別会員 高木厚人先生(右)



日展特別会員 石飛博光先生(中央)



日展特別会員 清水透石先生(右)



日展会員 牛窪梧十先生（左）



日展特別会員 一色白泉先生(左)



日展特別会員 海野濤山先生(右)



近代書道研究所 所長  
青山慶示様（右から 2 人目）



読売新聞社編集委員  
菅原教夫様（中央）



日展会員 楠崎華祥先生（左）

## 令和元年度支部長講習会

### 「小学校低学年における水書用筆の指導研修会」

期日 六月十六日(日)  
会場 国立新美術館 三階講堂



田中節山先生のお話



配布された資料



映像教材の座学の様子



真剣にとりくむ参加者の皆さん

令和最初の書象展会期中である六月十六日、国立新美術館三階講堂において、支部長講習会「小学校低学年における水書用筆の指導研修会」が行われた。来年度より、新しい「小学校学習指導要領」の全面実施となり、道徳や英語が世間では話題となっているが、国語科における書写的指導でも、小学校一、二年生から、水書用筆等を使用した運筆指導が加わることとなった。

今回は「書写・書道教育推進協議会」の御支援を受け、学校以外で行われる初めての講

習会であった。推進協議会の中心を担つておられる田中節山先生、荻田光山先生、小室墨汀先生が講師を務められた。

前半は映像教材を使用した座学、後半は実際に水書用筆を使用した指導方法を学んだ。

書写における水書指導は硬筆の運筆指導のためである。そのため、水書用筆の軸の形は鉛筆に近い六角形となっており、穂の長さも小筆よりも短い専用のものとなっている。具体的な指導では、児童の視点から、主体的な取り組みを促すような工夫がみられた。文字の

点画を書くのではなく、横線、波線、イラストなど、線遊びとして様々な線を引くことで、樂しみながら学べる工夫が施されている。受講している我々大人でも楽しめるものだった。

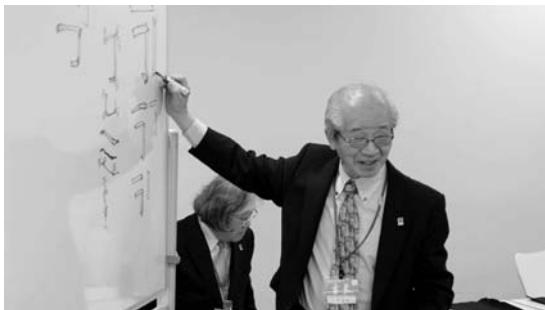
書象会は、書道教室にて児童・生徒を指導している会員は勿論、教員として実際に学校現場で教鞭を執っている会員も多いので、本研修は本会にとって大変有意義なものとなった。この講習で学んだことを現場で実践し、文字を書く大切さ、樂しさを伝えていきたい。

(吉田節城記)

## 実技講習会

# 「実用書講習会に参加して」

期 日 六月十九日(水)  
会 場 国立新美術館 三階研修室



市澤静山先生による解説



内藤望山先生による添削



基本の大切さを実感



机間巡回による丁寧な指導

今回の実技講習会には、様々な場面で活用できる実用書の基本を学ぼうと約二十名が参加して、実用書の楷書・行書や地名、葉書・封書の書き方など、各書式・様式の手本に取り組みました。

用意していただいた手本を眺めているだけでも、眼は養われ、腕も一段と上達するように思われました。

最初に市澤静山先生から、欧陽詢や虞世南を例に解説していただき、「信山書法」の執筆法

を丁寧に実技指導していただきました。次に内藤望山先生からは、字形の構築や、重心線を貫く重心とバランスの大きさについて助言をいただき、藤森大節先生からは、葉書・封書の手本による具体的な書き方を指導していました。

最近はパソコンなどの普及で、文字や表記を正確に美しく書く機会が少なくなっていますが、今回の貴重な経験を是非、生活の中で生かしていきたいと思います。  
(久保田麗香記)

# 柳澤玄嶽・書の世界

会期 五月二十八日(火)～六月二十三日(日)  
会場 埼玉伝統工芸会館・特別企画展示室



圧倒する作品が迎える



じっくりと鑑賞する来場者



世界文化遺産となった細川紙による作品



多くの来場者で賑う会場

都心から少し離れた緑豊かな小川町は、酒蔵が三つもあり、駅前から「三酒蔵めぐり」のバスが出るほどです。「いざ、鎌倉へ。」の鎌倉街道も一般道として今に残ります。江戸城無血開城に深くかかわり、後に明治天皇の侍従となつた山岡鉄舟の領地もありました。二〇一四年には、平成天皇皇后両陛下が、小川町にある埼玉伝統工芸会館にお立ち寄りになり、後にユネスコの世界文化遺産となつた細川紙をご高覧されました。

この度、この歴史と伝統のある小川町の埼玉伝統工芸会館で、玄嶽の個展を開催しましたことは大変光栄至極なことでした。展示企画内容は以下でした。都美術館での「TOKYO書・公募団体の今二〇一七」の出品作三点を含む大作から小品まで合わせて一五点。うち「令和」など二字を書

いた細川紙のランプシェード作品が三点。細川紙に書いた作としては他にも、六二×八八センチの楷書「敬天愛人」(南洲句)、九〇×五八センチのカタカナ交じり書「人ハ至誠ヲモツテ・・・」(鉄舟語)等五点。大作では、全紙縦二枚継ぎ二幅に大字の「驚才風逸、壮志煙高」(文心雕龍)、全紙縦一枚継ぎ六幅に信山バリの「篆隸相・・・」(同)等四点。他に半切の行草作品等。主に文心雕龍を素材とした作品が九点見られ、玄嶽の書作のライフワークとなつてているものでした。

埼玉伝統工芸会館は「道の駅」という側面もあり、千差万別・国籍を問わず、たくさんの方々が訪れました。世界旅行中のスイス人、修学旅行中の香港の小学生ご一行、無農薬野菜研修中の北欧の青年達や母親の里帰りに同行したタイの医大生

等。文字は読めないけれど、皆様、絵画でも觀るように熱心にご覧くださいました。その姿に私もが、感激致しました。信山バリの魅力と日本文化の素晴らしさを改めて感じました。

(玄嶽支部 柳澤雪葉記)

は理事長ご夫妻をはじめ副理事長、諸先生方、たくさんのお客様にご高覧ご教示いただき感謝に堪えません。ありがとうございました。

令和元年度春季昇段級試験・師範・準師範・特待生昇格試験特集

師範 雅 安藤 雅楓

おもと人間を救済するもの。二つ程  
一つは文字であり、一つは芸術であり  
一つは宗教と云ふとあります。

文字の大小が効果的に力強さと自然の流れを感じさせる。文字の中の無理ない余白によって、一層ゆったりとした安定感が表現されている。

師範 若松 小田 由紀

おもと人間を救済するもの。二つ程  
一つは文学であり、一つは芸術であり  
一つは宗教と云ふとあります。  
由紀 菊作

仮名をスマートに、漢字を大きく書くことで、行間に明るく美しい仕上がり。手本の各行の流れを的確に捉えている。

準師範

紅竹 中村美音里

おもと人間を救済するもの。二つ程  
一つは文字であり、一つは芸術であり  
一つは宗教と云ふとあります。

漢字と平仮名の大小長短の調和がうまくとれている。中心がとおり、縦に流れる貫通力がある。

準師範 若宮 竹前 梶華

おもと人間を救済するもの。二つ程  
一つは文学であり、一つは芸術であり  
一つは宗教と云ふとあります。  
梶華

やわらかな伸びのある線質で、文字の形も整っています。ため、上品で格調の高い作品に仕上がった。

特待生 華雪 森本紗和子

心がこもった言葉には深い  
悲しみにいる人の心を動かす  
不思議な力がある。  
森本紗和子

漢字、平仮名の大きさのバランスが良い。字間・行間の広さも適切なため、一字一字が見やすく、全体もまとまりた。

特待生 柏心 大谷 優

**草花**  
中二 大谷 優

穂先の弾力を効かせて引き締まつた線で書けている。や小ぶりに書き、余白を生かした紙面構成は見事。平仮名がやかたか。大谷優

特待生 練馬 高瀬友理

**草花**  
中三 高瀬友理

メリハリのある筆遣いで、文字の大ささや配りと書けば伸びていて、計算されても成績が十分に発揮される。文題にてて同じように練習して、日頃の成績が十倍以上に伸びる。

特待生 名東 落合 里名

**草花**  
中三 準八 落合里名

確かに筆遣いが光る秀作。余白を意識しながら文字を組み立てられている。本 文同様に名前も立派に書けている。前も立派に

特待生 有虹 井口 愛理

**草花**  
中二 井口愛理

元よく堂と書けた力作。力強さの中に織細さがあり、技術の高さが窺われる。名前を含めて半紙に上手にまとまっている。

師範



杉 藤木 隆二

隆二

墨量豊かで、一気に書き上げられた秀作。逆筆もよく効いて切れ味鋭い線質が魅力的である。

師範



有象 石井 菁峰

菁峰

キレイのある線質で、正確な筆遣いは安定感がある。宿墨のにじみが独特の雰囲気を醸し出している。

師範



志摩 倉谷 泰風

志摩 倉谷 泰風

大きな運筆による、伸びのある線質が特徴。文字の大小、墨量の変化を自然に表現した。落款のバランスもよく、全体の調和もとれている。

師範



古屋 葉明

葉明

一貫して等しい太さの線で仕上げられている。鍊度の高さ、のびの良さ等、行き届いた秀作である。

師範



玄樸 濱田 緑風

玄樸

余白の美しさが目に鮮やかである。潤渴の変化が上手く表現され、静かな作品となっている。線質も強い。

師範



片岡 珠松

片岡 珠松

充実した力強い線は隸書の基本用筆が身についていることの証左。墨の潤渴も効果的。やや縦長に構えた字形は改善の余地あり。

# 第36回読売書法展入賞・入選者一覧

(△印は会友)  
（順不同）

## ◆読売新聞社賞（二名）

仲島 秀峰

## ◆読売俊英賞（二名）

都所 影花  
針原 伯翠

## ◆読売奨励賞（三名）

畔原 小霞  
田中 紫花

## ◆特選（五名）

△久保田珠悠  
松岡 馨秀  
早川 雅節  
牧野 蘭庭  
橋本 桂雪

## ◆入選

### 〈漢字部〉（八十五名）

渋谷 静秀	△富田 童柳	△長田 詠李	副島 杏静
福田 高苑	△古川 璎光	△森 晨英	瑠璃 智峰
△柳田 志華	△山口 芳節	△米倉 花光	伊達 秀月
△青柳 緑水	△藤井 景華	△古賀 沙苑	遠峰 横庭
△小林 皓山	△藤井 懇花	△古賀 沙苑	中田 皓花
新井 雄峰	池野 愛麗	原田 春桃	内藤 天意
石原 楚峰	伊藤 恵佳	中村 晴山	豊田 尚月
宇野 夏夕	榎元 仙翠	野口 節風	田幸 智峰
大村 玻玉	小笠原陽麗	中村 春桃	雲峯 智峰
織戸 加藤 晨玉	井上 江静	土井 溪風	中島 西英
金坂 心快	加藤 祥葉	虎本 溪風	田中 稔暉
神谷 葦節	加藤 静花	高柳 静志	豊田 尚月
菅野 芊里	上條 窓苑	中村 春桃	中島 西英
佐久間萩玉	小林 真志	吉田 春桃	田中 稔暉
桑島 秀雪	小池 峰弦	吉田 美光	関口 越山
佐藤 尚山	後藤さくら	森島 美光	鈴木 関根
森井 京琴	立花 壮山	吉田 美光	杏静 聰心
森田由紀子	齊藤 祥仙	吉田 美光	鷹谷 聰心
原口 華煌	久保田麗香	森島 美光	伊達 潤心
谷川 汀楓	佐藤 富靜	吉田 美光	遠峰 潤心
宮入 杜心	佐藤 茜沙	吉田 美光	潮虹 潤心
宮澤 長谷川竹心	高橋 静志	吉田 美光	中田 智峰
晃静 露湖	近藤 甘中	吉田 美光	豊田 関根
長谷川竹心	惠果	吉田 美光	西英 淡愁

### 〈調和体〉（二十名）

平野 壬櫻

## ◆秀逸（二十三名）

### 〈漢字部〉

池口 聖嶽	石井 菁峰	△伊藤 西光
浦山 蒼樹	△小田切 静唱	△工藤 和春
小島 華凌	早乙女墨光	



# 書象会通信条幅研究会課題の解説（令和元年八月～十月まで）

## 信山流



## 隸書

## 仮名

最初に十分墨を含ませ二行目の半ばまで一筆で一気に書かれ、「さきに」で軽い墨継ぎがあります。ハッキリした潤滑の変化は、平らな紙面に立体感を生じさせ、黒と白だけの単純とも言える表現に息遣いと華やかさを見せてくれます。

筆の大きさや紙の種類によっては十分なカスレが出にくいこともあります。そんな時は、ティッシュなど水気を吸いやすい紙を利用して墨量を調節するのも一つのテクニックとなります。



今回の「バリ」は、楷書でガッチリと書かれています。造形の確かさ、強い筆力が生む骨格の強さ、生命感溢れる世界の表現に挑戦してみましょう。

注意点としては、

- ・筆をしっかりと持ち、基本である逆筆を習得する。
- ・一行の流れを表現するために、文字の大小と墨色の変化に留意する。
- ・腕、肘を堂々と大きく使って「スピード感」を表現する。

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

## 字を書くことの楽しさ



名東支部 中三



芙蓉五支部 中二  
齋藤可奈英



雅支部 中一  
山元寧士

## 努力

友達や家族に字がきれいだねと言われるのは、とても嬉しく、小さい頃から習字を続けてきて、よかったです。熱心に指導してくださった先生のおかげです。これからも、もっとと上を目指して頑張りたいです。

支部長先生より一言 千鶴ちゃんおめでとう。中一からの編入入会。上達ぶりに驚きました。高校になっても期待していますよ。

今回、毛筆でも特待生になることができ、目標であった二冠達成をすることができました。ここまでこれたのは、指導してくださった先生や、応援してくれた家族がいたからなので、しっかり感謝を伝えたいと思います。

支部長先生より一言 合格おめでとう。中学生で部活、学業共に大変な時期良く頑張りました。これからも頑張りましょう。

一年生から習字を始めました。7年間続けられたのは根気強く教えてくださった先生のおかげです。ずっと目標にしていた特待生になれてくれしかったです。次は、毛筆も特待生になれるよう頑張りたいです。

支部長先生より一言 少年野球と書道と忙しい毎日ですが、一步一歩積み上げた力は結果を生みます。合格おめでとう。

## 念願の特待生



木下千鶴



伊奈支部 中一  
原田京佳



雅支部 中一  
山地菜生

## 次の目標

僕は、小学一年生から書道を習い初め、今やっと念願だった特待生になることができました。今までご指導してくださった先生と支えてくれた親に感謝し、これからもより良い字が書けるようがんばりたいです。

支部長先生より一言 幼かっただ輝君も部活でキャプテンをするほどに立派に成長しました。この特待生も価値ある物です!!

小一から始めた毛筆。今回特待生になることができ、とても嬉しいです。ここまで丁寧に指導してくださった先生にとても感謝しています。これからもさらに上を目指してがんばっていきたいです。

支部長先生より一言 毛筆合格おめでとう！一つの課題を集中して行う姿勢は素晴らしいです。行書や硬筆も自信を持ってね。

私はずっと特待生になるのを目標にしてやってきました。だから、硬筆で特待生になれてすごくうれしいです。そして、指導して下さった先生にはとても感謝しています。毛筆でも特待生になれるよう頑張ります。

支部長先生より一言 硬筆特待生おめでとう。にこやかな菜生さん頑張りました。次の目標も達成しましょう。

## 高みを目指して



中野支部 中三



正桂支部 中三  
白瀬輝

## 決意



土筆支部 中三  
鈴木啓太

## 目標達成



伊奈支部 中一  
荒木真結

特待生となることができ、嬉しく思っています。いつも温かい指導をしてくださる先生、支えてくれる家族に感謝したいです。これからも、慢心せず、追究する気持ちを持ち続け、更なる高みを目指したいと思います。

支部長先生より一言 しっかりと目標を持つている彩音ちゃん。これからも目標に向って更なる高みを目指し頑張ってね。

僕は、小一の頃に、書道を習い始め、中三でやっと特待生になることができました。また、特待生になれたのは、家族や、先生の支えがあったからです。高校になってしまっても、先生のもとで、精進していきたいと思います。

支部長先生より一言 長い間休まず通つて来る啓太君、特待生合格おめでとう!!さらなる目標に向かって精進して下さい。

習字を始めて約七年。目標としていた特待生になることができ、とてもうれしいです。いつも丁寧にご指導してくださる先生のおかげだと思います。これからは、行書を上手く書けるよう頑張ります。

支部長先生より一言 硬筆合格おめでとう／ゆっくりと丁寧に書く姿勢が結果につながりましたね。今後の自信につなげてね。

# 少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

飯山支部 小五 酒井萌愛



にこにこと笑顔の絶えない萌愛ちゃん。少しずつ上手になっていますよ。色々な事を楽しく話してくれます。これからも益々上達する様頑張りましょう。

飯山支部 小六 宮澤柚羽



大らかで、何事にも興味津々な柚羽ちゃん。左利きですが毛筆は右手で上手に書きこなしています。硬筆は左手と両刃使いですね。小学校最後ガンバレ。

飯山支部 中二 渡辺六花  
大田支部 小六 國井莉桜



茜支部

小六 岡本理沙  
大田支部 小六 小林千咲音



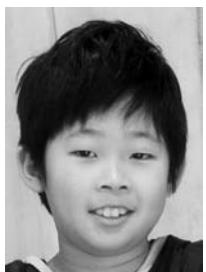
莉桜ちゃんは、小学二年生からチアダンスをしています。チアで試合に華を添え、皆に元気を与えていたる女の子です。書道との両立、応援しています！

大田支部 小六 吉田留唯



最近めきめきと力をついている留唯ちゃん。自他共に認める集中力の賜物ですね。英会話を頑張り、絵を描いたり読書をしたり、細かい作業も得意です。

神奈川支部 小六 古谷拓海



水泳とサッカーも習っていて、料理も好き。沈着冷静なのにユーモアがあり、じっくりと課題に取り組む姿は立派です。将来はデザイナーを夢見ています。

小六 岡本理沙  
大田支部 小六 小林千咲音



紅竹支部

小五 富岡遙香  
大田支部 小六 千秋岩原千秋



元気な千咲音さんは学校ではサッカー部で習字は休む事なく集中力も増し良い字を書きます。書初も毎年大きくなり賞を頂き目標は特待生です。頑張れ！



千秋ちゃんの周りには笑い声が絶えません。いつも楽しく課題に取り組んでいます。六年生になり難しくなってきている英語も、意欲的に頑張っています。

大田支部 小六 服部美吟



人の気持ちを察することができ、友達に何かれる美吟ちゃん。空手を頑張りながら、書道にも欠かさず出席しています。読書好きという一面もあります。

大田支部 小六 岩原千秋

千秋ちゃんの周りには笑い声が絶えません。いつも楽しく課題に取り組んでいます。六年生になり難しくなってきている英語も、意欲的に頑張っています。

今月の優秀作品



△隸書条幅△ 評 中村 巍山

評 柳澤 玄嶽

飛泉挂碧峰

飛泉挂碧峰

春玉

春光

壺玉

正確に形をとらえた。格調も高い秀作。

飛泉挂碧峰

竹虹

朝霞ハアリ青の姿ナサニ

春秀

骨力あつてよい。

飛泉挂碧峰

壺藍

朝霞ハアリ青の姿ナサニ

春響

明るく清澄さを感じる。

飛泉挂碧峰

春楓

朝霞ハアリ青の姿ナサニ

春秀

含墨で全体を統一した。

飛泉挂碧峰

春楓

朝霞ハアリ青の姿ナサニ

春幸

墨色もよい。

飛泉挂碧峰

春楓

朝霞ハアリ青の姿ナサニ

春幸

やゝ小ぶりにまとめた。

飛泉挂碧峰

春山

朝霞ハアリ青の姿ナサニ

春大

深味のある作。

青山如夢

春林

清風吹脩竹

春峰

青山如夢

春大

大胆に。

△条幅随意△ 評 久保 妍山

桑野小琇

太い線で流動美のある作品。この調子で。

浅井菖風

濃淡の変化をつけ、全体感良く仕上げた。

金山雨虹

切れの良い線でまとめられている。佳。

△通信条幅△ 評 柳澤 玄嶽

松田司峰

基本点画に忠実で骨格がしつかりした結構佳。

高田霽楓

形の確かさ、筆圧の強さ、大佳。

井上悠水

大きな動きで迷いなくまとめた。

基本課題

評 小渕 石峯

銷魂祭

銷魂祭

銷魂祭

銷魂祭

若何

若何

若何

若何

達禮脩

達禮脩

令和

令和

風教及

風教及

令和

令和

洗心

供事

洗心

高祖

洗心

供事

洗心

高祖

豁然開

豁然開

豁然開

豁然開

鑒踈朗

豁然開

山本  
新記  
考子

山本  
新記  
想考

山本  
新記  
想考

山本  
新記  
想考

京都  
新記  
想考

飯田  
師範  
想考

飯田  
師範  
想考

飯田  
師範  
想考

師範  
想考

師範  
想考

師範  
想考

師範  
想考

洗心

供事

洗心

高祖

新記  
想考

小林  
新記  
想考

壺川  
新記  
想考

新記  
想考

達禮脩

風教及

令和

令和

新記  
想考

壺川  
新記  
想考

新記  
想考

新記  
想考

達禮脩

風教及

令和

令和

新記  
想考

壺川  
新記  
想考

新記  
想考

若何

若何

若何

若何

新記  
想考

壺川  
新記  
想考

新記  
想考

島村霞菖 文字に横への広がりがあり安定感良し。

川島映雪 爽快さを感じる作。線の切れもよい。

岡本秋麗 逆筆がよく効いた伸びやかな線である。

金澤瑠月 墨量豊かで、柔らかで悠然とした作。

研究課題

評 成瀬 恵苑

荻原梓虹 墨量豊かで、逆筆を効かせた強い線。

小暮静翠 鍊度を感じさせ、伸びやかな線である。

佐藤茜沙 深みのある重厚さを感じさせ、かつ雄大。

東 瑞逤 二字ともに左部を強調した躍動感ある作。

古典課題

評 白瀧 静苑

加藤静花 筆勢があり、写実的に仕上げた秀作。

松尾小楓 形を正確にとらえて美しく、スキがない。

小野壺水 明るく軽快にまとめ、形も正確でよい。

藤井静素 筆圧の強さが目をひき、落着きある作品。

師範部

評 大澤 梢光

△楷 書▽

井上雅幸 品格の高い鍊度ある作。余白が美しい。

下平成苑 澄みきった線で伸びやかに書けた。

岡江豊 墨の含みが良く落ちついた作。

小山勇峯 安定感のある筆遣いが印象的。

垣内孝子 細部にわたり神経の行きとどいた作。

平岡想花 淡墨の墨で爽やかに仕上げている。

田島壽仙 文字の配分もよく余白が生きている。

片岡珠松 正確な筆遣いで全体感もよい。

影山天性 一点一画安定感のある筆法で表現できた。

中原宏恵 弾力のある線でふところの広い作。

竹野翠紗 雄大な作、清々しい印象をあたえる。

姫野千節 正確な字形で腕がよく動いている作。

小林貞月 落ちついた作品、安定感がある。

中田皓花 軽快な線で、明るく仕上げている。

福島綾羊 一字一字丁寧に書かれ、落ちついた作。

平野里奈 躍動感があり、墨色の良さが目を引く。

△仮名▽ 評 小渕 石峯

鑒疎朗 豔然開

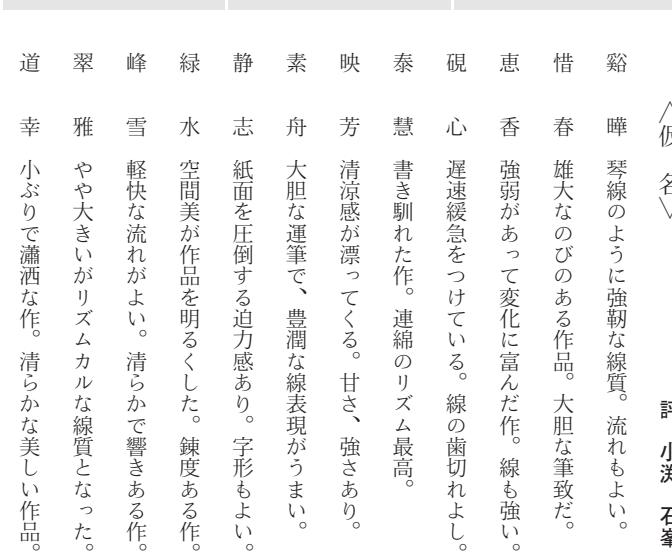
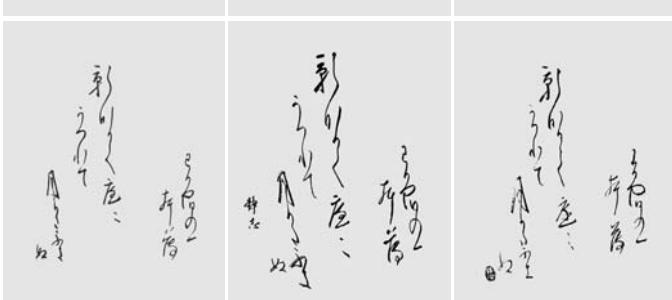
鑒疎朗 豔然開

鑒疎朗 豔然開

鑒疎朗 豔然開

鑒疎朗 豔然開

鑒疎朗 豔然開



道翠 幸

峰雅

緑素

静志

泰芳

映舟

硯香

惠春

惜強

暉春

姫暉

中田皓花

福島綾羊

平野里奈

学生部

評 坂牛 静心

井口愛理 力強い線で伸びやかに書いている。

山本愛美梨 丁寧な筆使いで形よく書けている。

坂本陽平 伸び伸びとして雄大。文字の形もよし。

高島梨未 四文字を太くバランスよくまとめた。

田口舞絵 正しい筆使いで、形よく書けている。

朝能玲那 伸びやかな筆使いで軽快に書けている。

大槻志穂 気分よく筆を運んでいる。秀作である。

大竹莉緒 真面目に一生懸命書いており、秀作。

永原依奈 正確な筆づかいで伸びやかに書けた。

柳田梨華 手本をよく見て素直な線で書けている。

立花碧唯 腕を大きく動かしてのびのびと書けた。

押田卓飛 堂々とした線で力強く書けている。

宮山拓士 大きくのびのびと書けています。

小野さやか 元気一ぱいに書けました。

森崎るな 墨をたくさんつけて元気よく書けました。

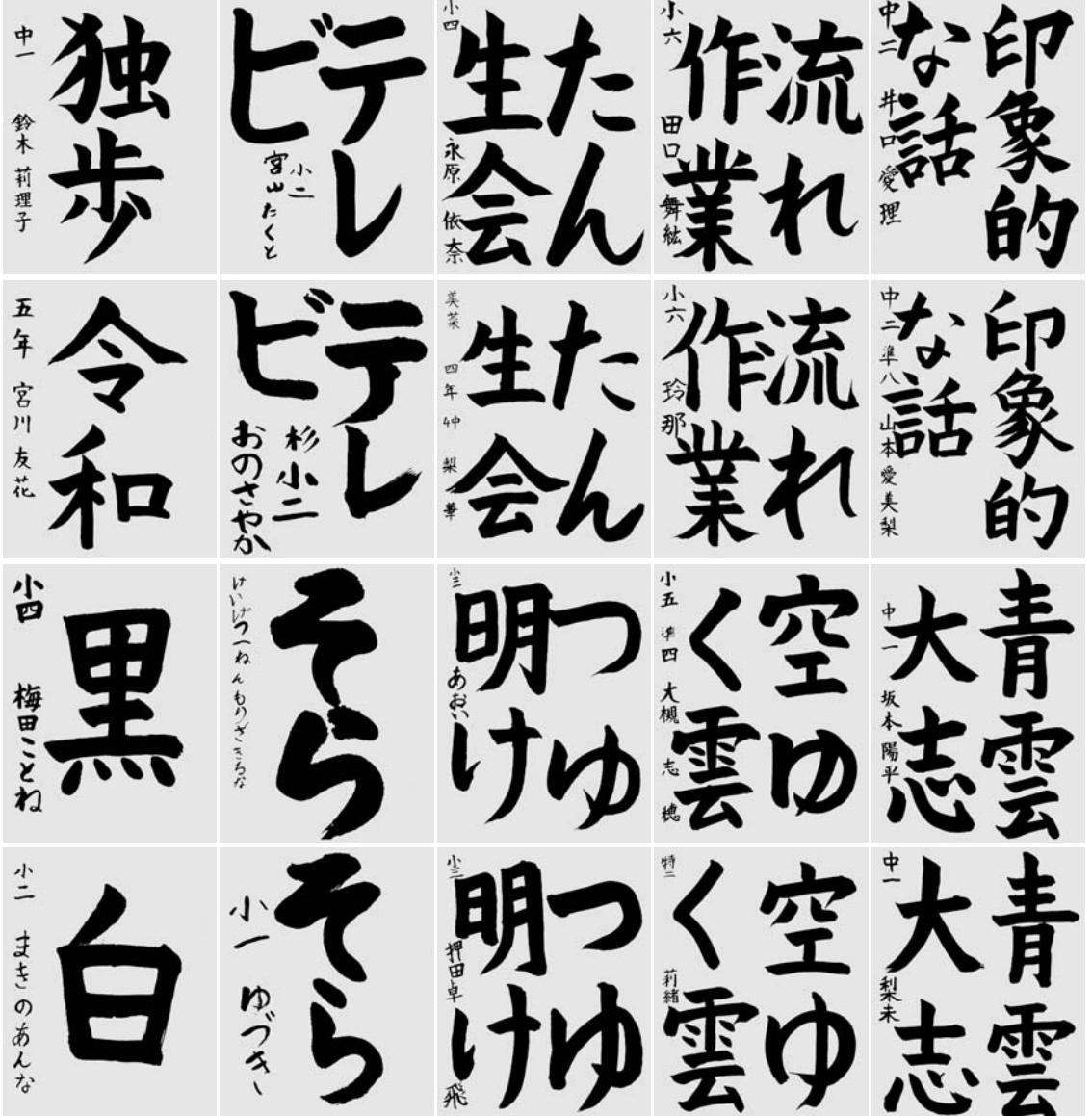
青木柚月 力づよく、形よく書けました。

半紙隨意

評 中内 真意

莉理子 力強く堂々とした線で書けた。この調子。  
友 花 字の大きさ、形よく出来ています。大佳。  
ことね 筆の入り方、終わり方がとても上手です。  
杏 奈 大きく、のびのびとしたせんでかけた。

このページに掲載された人には書象会より記念の  
筆をさし上げます。

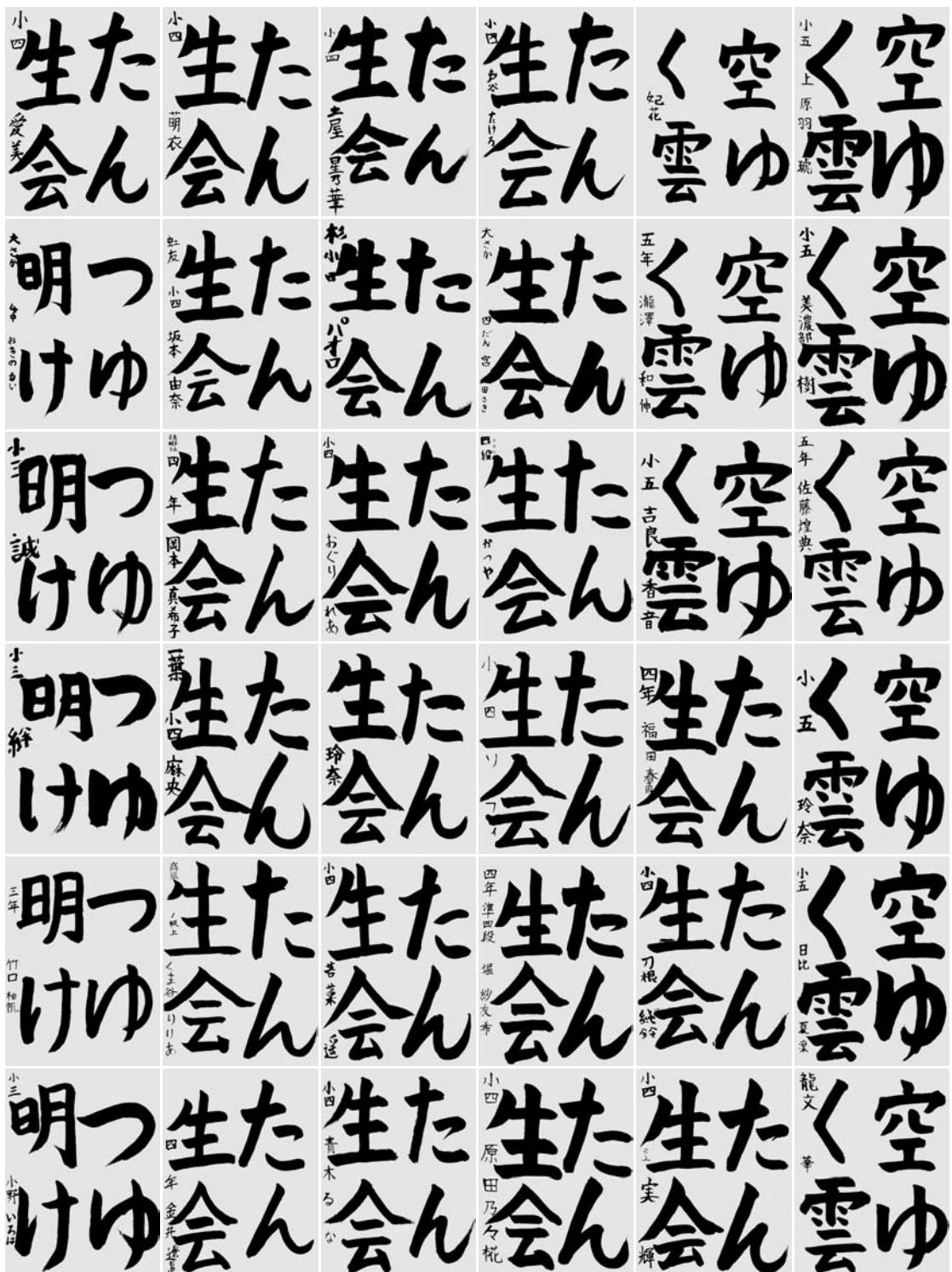




印象的	な話	な話	な話	な話	な話	な話
中一 瀬戸唐汰	中一 彦月	中一 百耀	中二 鳥田帆夏	中三 高難花	中二 西澤慶	中二 西澤慶
大志	青雲	大志	青雲	印象的	な話	印象的
冬喜 中一 相澤沙織里	中一 松本滿莉	中一 松本滿莉	中一 三浦航太朗	美幸 中二 特詩	石原	美幸 中二 特詩
大志	青雲	大志	青雲	大志	な話	印象的
中一 真名	中一 清香	中一 菜り果	中一 天利心優	中二 美観	中二 神谷未来	中二 神谷未来
大志	青雲	大志	青雲	大志	な話	印象的
中一 保戸塚幹大	中一 六段谷口俊風	中一 紗樹	中一 土屋優音	中二 紗和	中二 船橋準二段庄田有良	中二 船橋準二段庄田有良
大志	青雲	大志	青雲	大志	な話	印象的
中一 岩澤美海	中一 湯本朱裕	中一 あやか	中一 井上明日香	中二 若島美音	中二 松下遙香	中二 松下遙香
大志	青雲	大志	青雲	大志	な話	印象的
中一 岩原千尋	中一 里紗	中一 三上達生	中一 仙台中一	中二 小野國津つぐみ	中二 小野國津つぐみ	中二 小野國津つぐみ
大志	青雲	大志	青雲	大志	な話	印象的

[毛筆] 中二・三  
 大観観久喜の秀正名華若渚曉汀竹玄霞綾仙台倚雲倭高平成飯山珠妻科  
 田扇絵喜の雪桂東雪松華楓華模墨華台纏仙台若竹船橋  
 岩岩瀬戸保戸塚大久保相澤沙瀬戸稻垣湯谷木口崎城戸三上高山北川紗松本満莉愛  
 千美幹眞織里康汰紗葉月琴美葉月琴美葉月琴美葉月琴美葉月琴美葉月琴美葉月  
 寅絹里朱桜遥生綾花梨乃果百桃乃果百桃乃果百桃乃果百桃乃果百桃乃果百桃  
 尋海大美名里里朱桜遥生綾花梨乃果百桃乃果百桃乃果百桃乃果百桃乃果百桃  
 有良幸慶





【小三】  
 名東 創源 霞雪 華雪 大阪  
 小野 いのる 柚帆 純一 内村 土屋 沖野  
 谷川 金井 熊谷 凜々愛 真希子 遼愛 美真  
 華雪 湿風 高葉 一往鄉 友光丘 秀北  
 谷川 愛真 麻央 奈由 奈萌衣 遙玲奈  
 高風 風葉 鄭希子 遼愛 真希子 遙玲奈  
 一往鄉 友光丘 秀北 雪山 月有虹  
 鳴衣 遙玲奈 領愛 遙玲奈 領愛  
 友光丘 秀北 雪山 月有虹 愛柏  
 鳴衣 遙玲奈 領愛 遙玲奈 愛柏  
 佐藤 宮田 戸谷 原田 乃々桃 克哉  
 堀紗友希 佐藤 宮田 戸谷 原田 乃々桃  
 小栗 原田 乃々桃 克哉 真緒 洗尊  
 原田 乃々桃 克哉 真緒 洗尊 実輝  
 福田 原田 乃々桃 克哉 真緒 洗尊 実輝  
 瀧澤和伸 原田 乃々桃 克哉 真緒 洗尊 実輝  
 高馬練 瑞祥 龍文 玄樸 球文 瑞祥  
 宮崎日比 吉良香音 玄樸 球文 瑞祥  
 上原小松崎 美濃部妃花 球文 瑞祥  
 羽琥樹 瑞祥 龍文 玄樸 球文 瑞祥  
 佐藤瀧澤 吉良香音 玄樸 球文 瑞祥  
 宮崎日比 吉良香音 玄樸 球文 瑞祥  
 美濃部妃花 瑞祥 龍文 玄樸 球文 瑞祥  
 羽琥樹 瑞祥 龍文 玄樸 球文 瑞祥

ビテレ <small>小二 年大石心美</small>	ビテレ <small>小二 年大石心美</small>	ビテレ <small>小二 年大石心美</small>	ビテレ <small>小三 赤羽諒太</small>	明けゆ <small>小三 鈴鹿小三上高垣叡司</small>
ビテレ <small>小二 年大石心美</small>	ビテレ <small>小二 年大石心美</small>	ビテレ <small>小二 年大石心美</small>	ビテレ <small>小三 有唯</small>	明けゆ <small>小三 明けゆ</small>
ビテレ <small>小二 山田けん太</small>	ビテレ <small>ももこ</small>	ビテレ <small>ゆうき</small>	ビテレ <small>小三 鶴良伸仁</small>	明けゆ <small>小三 あかり</small>
そら <small>小一 えじりはゆみ</small>	ビテレ <small>やな</small>	ビテレ <small>さくらこ</small>	ビテレ <small>小二 まい</small>	明けゆ <small>特 天草</small>
そら <small>小一 りな</small>	ビテレ <small>つくし 小二 えよかずと</small>	ビテレ <small>小二 いのくみ</small>	ビテレ <small>小二 る</small>	明けゆ <small>三年 坂越</small>
そら <small>小一 ねづ</small>	ビテレ <small>けい けんご</small>	ビテレ <small>ひろ べみ</small>	ビテレ <small>四年 四上 ゆかり</small>	明けゆ <small>三年 たかはし祐太朗</small>

右文秀雪宮川千曲書之鈴鹿富士玄光丘照澤塗千富士高垣櫨本高橋祐一郎天寧朱里向葵  
 シ霞墨雲小二若松龍文名東瑞祥筆練馬城花蓮月松聲杉花華二皓花蓼心五峰秀坂須扇硯蓮田曲千  
 清水牧野伊藤山田山間岩山口山小川金井吉村伊得夕廣部坪井立花大石久井内江上立花大  
 瑞瑠穂奈健人和音也子悠心愛菜沙鶴華櫻子健人和音也子悠心愛菜沙鶴華櫻子健人和  
 宮解良岡友野赤羽高橋祐一郎天寧朱里向葵  
 小田中江尻はゆみ原田小野柚衣果彩心雛人健人和音也子悠心愛菜沙鶴華櫻子健人和  
 まこ有唯諒太郎天寧朱里向葵

<p>で夕小 いぐさ まれな ますの赤 。空と まくし だら おほ</p>	<p>お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。 お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>新緑の郊外の町を歩き、家並 みもいつか尽きてあたりはすっ かり村の景色になつた。古賀五 郎左衛門</p>
<p>で夕小 いぐさ まれな ますの赤 。空と まくし だら おほ</p>	<p>お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。 お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>新緑の郊外の町を歩き、家並 みもいつか尽きてあたりはすっ かり村の景色になつた。古賀五 郎左衛門</p>
<p>で夕小 いぐさ まれな ますの赤 。空と まくし だら おほ</p>	<p>お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。 お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>新緑の郊外の町を歩き、家並 みもいつか尽きてあたりはすっ かり村の景色になつた。古賀五 郎左衛門</p>
<p>で夕小 いぐさ まれな ますの赤 。空と まくし だら おほ りん りん</p>	<p>お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。 お寺から北へ向かって歩 いて行くと、大きな湖が 見えできます。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>わたしは星にきょうみがあ ります。天体望遠鏡で夜空 を見たいです。</p>	<p>新緑の郊外の町を歩き、家並 みもいつか尽きてあたりはすっ かり村の景色になつた。古賀五 郎左衛門</p>

## 競成績

□写真版  
☆秀作  
○昇級

長瑞葉北龍玄京飯 美柏浅虹磯 書 玄松 玄長 富 檜房伊 笠倭楽玄長花杉大玄美沙皓若春草笠玄大上座岐玄源飯京  
翠祥月府文嶽都田 菜心間友辺 集 嶽戸 横寿 貴 森風奈 原 書黙野象 阪默五羅花竹玖 原黙阪里吉阜心創田都師楷 師  
秀秀秀  
佑名美凌映英絢勝霧霧 莉鬱葉谿愛文久嶺茅聖明華重天光劍天菜泰泰綠澄賴富翠邀玻光里綾皓貞千翠宏天珠想孝勇邑成雅範書 範  
奈 真 美 タ  
光扇子翠雪葉楓江楓月 杏山曉暉鈴子葉子花里香笛英子妙水山翠子帛蕙水江山静花月紗奈羊花月節紗恵性松仙花子峯峯苑幸  
玄 綾若 葉蔭草 東竹 玄網産玄若国自皓 穎杉土大玄晏平三游国静茅巍美小有上麗土伊霞玄美上珠映文 華靜成石長靜  
成 華松 月 陽華 心丘吉樸竹府産花 雲 筆象黙墨黙成池墨府 野山苑光象尾墨筆奈墨樸菜尾紅心化 雪 峰峯野  
秀秀  
祥繪久照肇壺啓梅翠祥千理珀優雅成和象秋桂京景和景武泰快陵雲清泰光雅渥美鶴靜志霞沙小香康琴繪康湖美壽尚彰靜美  
梨  
苑子恵美子水子秀雅己苑香舟姬子美雄月麗春月草春光浩雄風光峯玄慧帆子風光苑香豈雪琇巒羽美絹堂明智松仙遊祥節睿靜月月淑靜  
六小 蒼美白房桐 ハヤシ 大桐房 神 国産半右 静自房 皓 露愛顧足 ハヤシ 淡半 ブルク 宮玄沙 足  
会川 穂五岡風生 墓山泉苑岡 吉淀生風 府吉田文 象産風 花 訪心雲羽 田 雲象 川成羅 羽  
美千流妍菖菖尚朋汀濤由禮友恵萌里香谿茂青高秀秀天奏整景美萌景梢靜寿淡塗祥立舒絵多 景華汀妙最汀皓桂輝真社靜祐悦朴清美真  
惠嘉 美 つ 嘉惠 智  
子子溪象月風子泉霄泉光光子泉香扇沙苑松苑翠澄竹子仙仙禾城陽成汀愁登花る子山里子 秀遙西仙玉紅草翠子静一素貴子山羊子希  
巍 化 玖書 雪 化 苑雲 芳 風 成春 風象 路默 穂墨府 興 黃  
霞麗裕泉秀爽京節節麗松華華華華錦華麗節知沙沙真千靜翠翠已我彩蒼祥白懐い幸明佑寶裕真清藤茜静花智天渚妍秀文景泉た錦錦  
舟爽月秋月節節雨真湖沙赤聲巡櫻遊慧節光節麗子桜蘭弓雪江真桐芳山雲風仙葉花み子桜美春美菜風花沙花天園意月龍麗界泉志ね泉葉雪  
上 中霞小 聖 右 青聖玄 長 秀 長 須神 巍 華 有 巍 笠 文有樂 尾 野墨平 文 雲 黙 翠 雪 翠 坂奈 山 雪 象 山 原 化象書  
康康榮悠晨紅花梢松明純瑞麻富清暎樹惠秀美響琇智智慳小恭茜伊翠雨清華奥華有加祥 花節玄夕愛比江霞眉泰彩泰紗曉麗幸蕙青晨溪小茜信  
紀 夜 登 清沙香華堂華由瑠琴菜竹彩竹虹子天光果水祐光光真翠泉子影英子山香茜駿泉紋美代節 庭峰瓊節麗彩西泉月城ガ乃穹虹麗吟泉影沙麗雪茜映草翠  
富若 松 新上 奈 浅 柏 長千長 濱 長瀬玄 美六 乙北中大和 貴駒 南 城里 華 間 心 野曲野 戸 野戸黙 生郷 訓府野手  
壺藍喜安天壺真朝志礼佐彩晴陽摩麻雪敦永陽励千淳悅裕湖愛李韶詔蓉琇華綾楠翰鹿芳蓮耘観静秀友喜玉静白旭晨蓮晨佳昭千京京友鐘光孝康  
以 登 里 晶花咲夫虹藍花花苑子香美江紀菜川子實映子幸子子泉光香泉映光峯峰子舟舟聲舟舟舟琳華唱志千梅春静信羽蓉英堤玉惠扇春仙琴美栄風子惠  
石珠松 長 竹 大 苑月芙青美産香笠香小 北 美 八 土小磯東 瑞 長 成八信 汀樂窓 比寿國静 峯紅代 野 黙友 阪 蓉雲二吉 原 平 府 華 潮 筆平和 翠 城戸州 松書山川 台府翠 絵  
瑤良美静杏恒順南テ司珠敏美澄忠明竹み琴藤泰植木代雅厚沙沙逕呼亞樺飛光芳葉直名聲名名孝晨紀明敏春百史順明由晴佐泰招訪峯靜恵李陽天  
智 ツ 恵 ち 美  
月龍子映静静道花子峰悠玉子子男惠虹子月子仙子華子美子泉春月光沙光悌蘭月草子洗紗琇琴志翠光光成美光代子美子沙美泉子泉山翠爽風景栄  
玄 碩 妻若珠墨成 杉珠雅士 龍乙 杉長 樹房伊 港奏宮 富富 長松 玄瀬 杉心 雲 科竹紅曜洋城 悠 曜 文訓 寿 森 風奈 南野地 士貴 寿南 燿戸  
玄欽馥春惜憧こ花千光明採無友知雅蘭信 尚秀初靜聖豪彩廣哲素英星小溥文佳涼素蠹青蟲か窓慶玲蕉窓芳笙 秋和美藍壽寿壽 滿耀典姫曉煌  
ず 彩 お ら 厚智  
穗造郁瑠清春光え仙波竹光花双美子香月夫 山庭泉章雅嶺峰紅山山州遠紅琴山嶽蓮香鳳泉玉る心子窓苑真月仙 代子穂川星敬鳳 子楓子舟汀扇  
玄 碩 玄 横 横 横 玄長 静 正 濱茅 ン山 月 光府嶽山嶽 勢 紅丘山南 辺 横  
李双李芳美蕙淨続小め袖 か夕晶晃遊玲小君静江静静惠采汀花竹一五弘草陶美節直久香里美豈詠貞と琴健ふ嘉翠照詠桂桂珠珠か政秀祥遊葉葉  
く 丽り 美 惠 美 み ほ  
雪葉葉葉葉葉山華風楓み香 ん紅山静心秀翠子恵静幸敬子美女心峰心風代子竹華子舟子子織絵砂翠舟松子三夫え子葉節李耀舞杏水る一鳳菊嘉楓梢  
茅若 東 大船 八樋皓 彦信 若 映汀玄 書 雅土備嵐杉 志紅 八磯 志 蒲 産静春 墨紅 上 書 玄 野松 根 象友潮友花 横 佐 心松心 之 曜後山 摩竹 南辺 摩 田 吉 鳳 心竹 里 集 嶽  
正蕙紅由雄圭千西度兎花皓佐 桦耕瞳太映珠映明美葵翠雅鈴菖弥隆道雪香紅啓希江葉薄奏浩さ玲櫻春秀春幹翠美陽湯谿霧雨洗葵采土芝春輝香  
代勇 佐  
純香雪紀峰苑光山月逕雲子 虹山月一笙岐芳美子翠幸春染華紀生二幸園苑玉風紅蕙蕉花風子子ら笙庭桃峰鳳雨溪里松山峰芳虹葉葉葉鳳華里山琳  
飯 京 こ 大船 美笠京 志 磯 笠 静水 北 美玄星 玄美 砥茅 照李サ東  
田 郡 の 阪橋 菜原都 摩 辺 原 代南府 墓成 黙那 野 澤光 陽  
菁完玉成充桜彩佳信津博禮良 初寿里晶珠萌友霽霽泰美曉汐楊未涼葉葉葉葉文広安泰泰久靜玲靜祥春隼哲照穆徑心齊五壽硯真峰照照李美江  
惠  
翠碩蘿華代玉楓恵楓楓楓子楓 楓雅と子久玉樹玲華苑淨楓月香舟央華涇伸明苑扁姬芸袖舟恭恩思奈鶴月信山子舟石燈花福峰心理弦和好光舟惠  
笠 玄 長倚源 備 北柾 小若大 霞茅葉東葉北葉 北映皓南 磯書 名須岡 葉 東 京  
原 黙 野雲創 後 府友 光 宮象 墓野月陽月府月 心花墨 辺之 東 坂谷 月 光 都  
泰越薰月禾大大ゆ皓靜風光澄菖ハ菖津玲頌千伶瑞光光梗梗悠溪雪夕曉善敦百美弘寂仙映翔南葉葉薰敷彩智通美ま知陽芳真禮道千和典明紀弦照  
り す 代  
咲山禾性苑我慶子静邦吟瑶子佑コ珀子翠山景那逕霞惠搖華紗花霞霞道一子子子翠翠華子岳桂宋翠子奈悠寿明子子真子子子子代楓美子照齡  
倭文蒲野志書有玄秀 笠瑞蒲玄大美 杉宮宵月松船大若玄久玄長四美神土聖 土芙蓉六 高中八晩長靜有長土竹 一心八志 笠  
化田辺摩集象耀雪 原祥田模阪生 地月 代橋阪竹模喜黙野谷菜龍筆 筆二 会 風野戸月野 象野筆華準 絵和南摩 原  
真麗典淳和朝直孝納雅和実佳さ凜晨浩紅信俊尚友佳彰虹荷桜章繪惠壽 美咲和盛靜ふ裕高康和慎ま麻麗英紗余範礼秀益冬清泰泰湖美泰紗泰  
由 次美 ら 美 武 じ ゆ 也  
美玉子子子子郎恵子美穂子ら玉翠美流子子美鈴玉泉玉嵐敬靜子千星 羽依美一江枝香月子光子み子扇靜加美 子光亭雅子邦空慶亭松芯光簾







碩々み美名杜杉み杉松杜美長 大杉晩北奈長 杉成石玄み皓柏練青李石光美一杜大游 杉文杉杉有茅八李茅備朝山杉霞小晴覗光優座	華笠美優雲な二東会な代会美寿5井 月府華寿 城峯心な花芳馬雲光峯丘菜路会阪巖4化月 象野潮光野後日愛 墨光美扇丘生吉 雪原那生
○○○○○○○○	○○○○○○○○
篠村小堀須松野上小間泉八有級池原姚丸夏中柿柳宮大山嶺林小澤池石浦須渡齋中村金級成猪鑑石石飯秋吉真柳秋大野平石石橋須澤大中菊岸丸中大原松泉内永澤崎田林間水代賀田 山山野崎下駄竹本原さ林田田松野田辺藤山田子瀬保田川田嶺元田道武山櫻田塚橋澤本田井村烟地可山村嶋あ満典淳千恵美幸千敬裕梢 恵惠波曉未智留昂一亞一舞え洋拓ア美衣千寿ひ正連友 明美優友拓洋直祖陸和玲茂三沙葵理和歩麻し麻純響広碧	○○
大〃〃杉玄四山高花草文 大成若杉石〃〃杉虹り松光有長八 宇星美八玄杉 中晏有晚大瀬笠有杜千〃新虹 桦名美み半八 間静杉宮杉大石宝玄井 黙谷愛風苑 化8象城竹峯 友ん聲丘象野戸 土 苑潮默 7野墨德華戸原德会曲 朋友 森東二な田戸6野 地 阪峯春心 ○○○○○○○○	○○○○○○○○
原根吉庄金井渡藤寺守級牧大西柳北上と小岩千福須浅三千尾岩安乾岩渡杉級小米大大永藤塩ニ益宮唐加津降桃大星秦福西級間山吉川福小中長山田津村田上久谷野田吉 原熊田下野松賀川戸國永田宅沼葉崎崎藤聖田部浦 高倉石澤原沢原 田崎沢畠上幡原西野喜山野 野田田田元倉村山本康益真健清美絵啓真美 浄佳祐征修美晏ち晃則明か清文裕園勝子記由香 大節慈順み和もシ文律と真明宗憲妙代美詩 唯佐毅真仁里直美那	○○○○○○○○
光倭有笠石杉玄正 北〃〃大 杉港 若宮柏新富宮玄柏玄 菊横書八"志磯汀" 磁書八八	秀華大玄"小北練玄葉大杉山書秀曉李八富葉丘 黙桂府 阪南竹地心城貴地樸心嶺 田二集南 摩耶辻松 込之戸南五坂
○○	雪霞院心 光府馬嶽月阪 愛集雪月光潮貴月
鈴楳歌百野宮南小宍熊田林木茂青窓相 中合た俊信太絵土染松小畠南鶴倉関坂古能岸谷落段名	東小手石原中岩佐栗長福後岩増李富藤長孝石
木田 澄入 戸戸中珠木木 原舞葉か 田 谷本山真飼谷弘 屋勢波地合	出林塚木村木崎藤原谷崎藤田田知山井岡 山裕靖結雅高杜社花智千賀彰影怜満草譽泉懂 真詔子瑛子荷舟鳳浩佳明和知と奏子口葉葉原春江
笠大杉笠大杉好小三宮港長「華長玄」富柏" こ野" 横玄倭 東玄"葉" も若華中"〃北城中"〃〃サ美大和中六美游錦神錦皓茜産玄美宮花静頃" 原阪 原阪 野平池南寿 雪翠耀 貴心の辺 二櫻 準根隸 月 松山雪野 府彩野	自真ま俊徹徳喜雅聰見直雅美令智和利子和
○○	ノ二象 勢会苑墨黄 黄花 心吉菜院草苑山雲
林武吉宮伸鈴竹岸溪牛慶柴染華原大濱安田松橋高田穴沖段齋松鈴村弓彌増小藤吉佑嘉平み星伊松友鈴渋大桂木赤須青菊岡吉萌越霽祐北今文由由居田沢 木内野 丸 寿谷 池誠名 中本爪本橋島原真 藤澤木石削田井林原富希 田さ野藤田里木谷森 田張井江野池田田 川 村井 香貴弘輝き珠蘭清澄風と子雅紀輝久子千夫惠綾里淳辰盛義由 由翠敏愛千蕙久華鐘慶子貞子早と眞江盛濤淳玉恭真遊錦奏錦み富禾裕華貴す秀江里	○○
皓美飯信文笠珠"〃四玄星瀬船水"〃大〃〃杉勝"〃〃玄靜富 新"〃こ" 横龍名秀志"華雅美 玄有若光八游高游高芙大八桜観サ沙倭" 文有花菜田大化原紅 谷黙戸橋代 阪 木 燥翠貴 城 の 二文東雪摩 雪 菜四漢象松丘戸墨風墨風ニ象潮友 ン羅 化象	○○
坂森完佐越歌恒渡高竹月根磯神柴松濱吉長杉六山藤下坂坂伊奥及川中高清高熊宮 敦井山華門原大段川清加友工長佐游小鳥小仁柏木平富小節生永腰霽 久谷田吉辺下 本村谷田田山村北枝井勢崎川鍋島橋田柳谷澤彩 上本 脇口橋 田水藤野藤竹考 林部口平崎村山崎田 野井儀千顧間信円櫻豎景恵性和ち美礼司珠玉と羅晶夏峯法ゆ緒と翠麻礼智晶満光帆 子典伊溪里住齋 か麗昌和と雅美真幸夏賀と早慶則昭舟麗麗	○○
美和青美さ高柏竹竹皓書 静"〃笠杉静笠優星大若桜美新宮こ新"玄"〃横秀雅"〃華八"長高儀八松横 級須綾東麗"暁" 中八大英土平練六柏二 雲宛わ風芳友華花泉 山 原 原生 阪竹森生城地の城 嶽 二雪 雪戸 野風 戸戸二準反華根墨 月 野潮象二筆成馬会芳	○○
柏松孝沙豊北真佐理田鎌尾長石山圓蒲市宇上山真碧鈴神都多重采望佐牧鈴齊玉森森斎江手中に森小金赤段富小久高阿藤中翠中齋刈佐吉松成野本 泉藤條々 上中嶋塚村井藤原川田久由 木林竹賀松 月藤野木藤木井清田藤芦塚西本知笠子澤 澤潤保田部平岡 川藤込利 田井澤瑞孝子蘭業照良木香文小由祥美和優と美沙川保玉空久桃患谷千葉清江博瑞蕙納カ石由綾患智賀予原千峯 智千多倫遙朱志白美湖沙美真季衛	☆☆
さ高柏皓玄足小光倭笠静瀬杉長有勝玄華長暁 水光八"〃中サ葉梶大高和平"柏覗一頃飯"〃笠石瀬珠大長富富 新"玄紅秀書華小 晓静小中わ風芳花心羽平丘 原 戸訓 寿象木模雪翠月準代丘潮 野月友象風 成 芳扇路雲田 原峯戸悠阪寿士貴 城 横竹雪集雪平三月 光野	☆☆
阿裕上林雅真山酒千萩佐安堀永寿近田一齐中稻段水高倉湯金山丸福淺林清夕竹羽古一土勝猿村手唐吉津後寿米竹一松高泉下稻岸安鹿段後武井中部條愛 中井葉原藤藤口田 藤部 木條垣 野構 本井田子士野照兼島 内田屋糸屋 田山塚津川田藤 田之ノ原橋さ垣見千部島 藤居上谷紀香和友子希笑秀美幸里ち奈桃敬節恭枝祐正昌 彩裕子瑠笑美い幸洋子実静佳良龍ひさ江朱由希由真恭田香澤内瀬美真ら美千秋ひ未 瑞典和美	☆☆
東花富優 華葉"暁小土"高晴一信湊"〃笠大杉桜玄紅産須久華中高八美 葵曉李中八美"大倭笠長四信珠大杉勝瑞有杉柏 柏華大北大若中土神光雲貴生初雪月 月平筆 風美路大 原阪 素櫻横竹吉坂喜陸潮風準月光野潮二 淀 原野谷大悠阪 木祥桜 芳ニ心雪阪府象宮勢筆龍	☆☆
☆☆	☆☆
奥寺宮大段梅相林唐當川宮田鈴伊撻牛小百目錄村南塙大田桜北阿齊岩段吉後原佐小立道岸齊手官藤山半宗長後小柳鱸平段北小岩向塚增浦絵松山澤崎嶠 原澤慎木間上川崎卯木藤口山浦懶尼黒尾山田紗明村鍋 澤部藤井 原藤敏林川喜本山島尾井田玉戸藤坂澤桃井 原暮崎井越原田 尾る幾鐘 喜ま子暁月紗真彩恵香均佳真祥共睦久師洋英子し隆岳博泰美保 永文ニ二陽未正早理麻節理高菜宋智豈美夢娟尚 典華和嘉菜東惠朋	☆☆
備石赤奈倚 玄小傭千富若"大乙"石一文倭竹大硯一虹神美小北倚北東若華笠 玄富八昇書雅杉"大"瀬瀬"杉四" 横文倭小平大和"〃美若後峯華石雲特巖平後曲士竹 阪訓 峯葉化 華淀扇路苑龍二光府雲府根松雪原準樓戸墨集 岩 悠戸 谷 原化 平成手 二松	○○○○○○
☆☆☆☆☆☆初	☆☆
近柵染宮胡字級川藤柳安岩小落大藤梅鈴吉安 柿石宮花吉押谷浅細伏農青村中安段 加鉢田米河森吉福岩奥丸林清野千森倉林三河羽佐伊今穴福向川藤原谷下内野 口井武藤野山合住本崎木浦部豪沼川嶋 岸見脇野田田柳松畠藤 藤木名倉野田村田手口梨野田葉舞鷲能藤合山藤藤惠井本井島 ア文教如正育 啓和由和楽愛良彩厚哲捷碧美 有智文天淳広立昇真武芽裕美麻す 穏禮部節土玲真訓真璃莉香葢三和花ひ活久真游信友美ゆ麻郁	○○○○○○
蒲玄秀瑞秀"名北久北"華杉秀倭美社 大大一希大光和霞大倭 笠映若秀サ北須秀大サ八蔵 大華三東東玄名"秀千玄桜大東笠"若高さ汀成田嶽雪伴雪 東府喜府 雪 雪 華会1阪淀路望淀庄 墓象 原心松雪ノ府穂坂雪内シ潮 特手雪池那根光心東 雪曲横森井根原 宮風わ松城	○○○○○○
神小平佐松諷渡鍋川小石鈴中吉泉級岡正森入岩白桜阿長安大山佐里保森山松内山杉峯閑級藤李ラス松大成大田今吉北田池児鈴須北清村作中澤林松藤本訪遠島鍋島戸木林澤村岡水 本體慶江澤立崎井部瀧達和田藤川坂詩下本野本本岸文 田奈 ミ澤場田津沼國里川中田玉木田爪水山森村麻礼華奈彩琳誠裕夢心幸成智散紗奈子も由明き麻孔露美夏真寅貴音大那ま幸陽真子 美菜ミス栄照陽伸幹真め深孤慮寛成幸む弘直由	○○○○○○
高〃中宝有倭"杉大奈千秀伯名杜玄華八照飯衫 若秀" "宝柏唯み" "光石星石柏" "秀姫若北李" 華中秀游杜 富志一大唯高若珠" 一大若桜山風 央春象 阪華曲雪芳東会心雪潮澤山月3松雪 春芳な心 丘峯 峯心 雪華松府光 雪央雪墨会2土摩路淀心社宮紅 葉阪竹森愛	○○○○○○
○○	○○○○
山坂平土渡松石山村夏木中小益松鈴岩伴惠彬級東佐長門本寺上古水須須阪安中内原川中戸村松園今鈴豐鳥金中級玉大佐大今上林未根中木皆九大田野本屋邊澤川田田下西林田本木野田美 岡々山田城島田本野田田藤村掘田口西田松島真井木井子山 木西藤熊浪野万 岸里下川山根倭夏幹遙橙実友靖進未紗彩洋棕文友記奈子咲 胡木美千袖清美惠靖千步容勝直沙彩水美駿七海知直華真優友正 美麻映信裕は寿沙涼吾研惠強茂	○○○○○○
美高大皓み皓"茜" "笠珠東笠八 光笠北李晩北若秀虹宮富杉松珠靜" "笠大" "上宝光" み晴華文美名 横光皓高石高乙大杉有華杜座" "右游光二風淀花な花 原悠陽原戸6丘原府光月府松雪友地土 代紅 原手 尾春丘 な美雪化苑東5二丘花風峯風訓阪 横雪会吉路4 文墨丘	○○○○○○
○○	○○○○
堀北小大嶋水青葉古松信井中千級城三植吉姚丸三竹岩川池野宮彩鈴三宮玉大長古湯小秦石松尾松山級松中林字浦久永海原大星松長安級津澤田文内藤川坪原田木田畠烟田田田葉 田村野田 山沢澤戸田川崎山 木構原井角谷田下泉喜澤井崎下田 嶺村さ城野未演津 石雄澤美樂 村村村野淳宗さ千舞有暉果と姿遥陽愛叶文 真ほ光佑波曉一芽ち真琴美友水を桙杏ま地舞響ア典代理佑光智純 薫芦え利衣大和旬思慈斗佐岡 星琴由末	○○○○○○
茅葉玄秀書山千富桜優大上小碁花光"硯虹笠華秀千山若 美光高華茅葉" 秀杉大石右" 光唯優小長 光珠八照龍" 秀茜" 秀千紅若桜大珠珠笠" 野月心雪集愛曲貴森生井尾光雲苑丘 扇宛原雪雪曲愛松8 菜丘社雪野月 雪 井峯文 丘心生光野7 丘悠戸澤文 雪 雪曲竹竹森 阪悠紅原	○○○○○○
赤石安武増岩中孝澤原北石輝藤阿本桔丸岸塵圃富渡川級笠小小石真柴小冲福永北中古西聰大曾浅 級千玉西百信藤所坂井東青湯小桐柿小立青塩星堀山下田田沢 輪井田村橋 野部田尾山可桜山久島 原林坂田道崎牧山元原野尾賀田 嶋我沿 葉井野瀬 原雅口上出木本林原倉川 原野景和真由令愛美子宗麻康匠葵子啓杏陽和朋響純子果美実 浩有早離修由菜仁み修若大媛子碧部清 月杏詩友夫未亥先直春楓憲留里茉美も妙	○○○○○○

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

愛 心 芭 • 上 尾 朝 日 • 飯 田 飯 山 • 倭 雲 社 • 一 絵	練若玄笠東名皓野"雅"大"船聖富さ六玄巍"倭飯"若石四"瀬宵正北"美"サ李須六若馬竹默原根東準花辺阪橋貴わ会樸山田松峯谷戸月桂府墨ン光坂会竹五硬五吉柄高百秋諷岡複雅清熊田中飯宮藍清松濱須沖慎三乘弓弓高水水佐汀小照吉松伊友星坂富布相段筆田澤橋瀬訪田本永野中村田下水井田田真田和田削原杉野野田野池田藤里野井澤田原真憧み雅河彩み淳染雅珠満友裕美川桐智綠患由靖玉蕙千彭景美勝螢心内子哲真と江早京智恭憲皓"聖和珠船名船"サ城正瀬麗京倭華倭華"玄游聖練中勝大夫長秀小名游信大光玄杉船大杉石葉若長飯有倭"華秀華玄若秀光書露新花悠橋東橋三彩桂戸墨都雪雪樸墨馬勢木阪象野雪平東準墨大阪丘樸わ坂峯月松野田象雪雪雪四樸松雪丘之訪城	有新華玄美"大高小葉虹"華李穂課城雪心菜阪社光月友雪光題	
		松邊加大小八福手申坂佐長津許菊羽石吉永い畠林池代崎塚西田藤谷上馨地賀松田梅真ま栄裕直真美威見明怡麻瑛美祖	
☆☆	吉柄高半渡神段平清花磯高中森華千齊川穴神宮世柱後伸齋富田山段青佐林友川丸明菊田曉野鈴谷杏吉永齊土華染甘門大段加篠戸酒翠舒和愛野村本田橋邊谷山田村野知葉木田原山川古藤藤川中木久珠野田山田中澤木遥川井山屋谷中臨島麗藤田田井田友萌奈孝菜美琳萌慶真峰ち倫恵子輝美祐か義禮萌貴玉豊珠美静美笑子由間怜和美正光佳彰汀高敏華靜成麗理惠渓紀恵里紗昌秀碧幸山彩	玄若秀光書露新花	
		☆☆	
☆☆	林坂西松半渡神段平清花磯高中森華千齊川穴神宮世柱後伸齋富田山段青佐林友川丸明菊田曉野鈴谷杏吉永齊土華染甘門大段加篠戸酒翠舒和愛野村本田橋邊谷山田村野知葉木田原山川古藤藤川中木久珠野田山田中澤木遥川井山屋谷中臨島麗藤田田井田友萌奈孝菜美琳萌慶真峰ち倫恵子輝美祐か義禮萌貴玉豊珠美静美笑子由間怜和美正光佳彰汀高敏華靜成麗理惠渓紀恵里紗昌秀碧幸山彩	☆☆	
		☆☆	
☆☆	前鳥藤安阿浜溪浜段大金知唐後丸奥丸田今小渡寺景姫高竹藤原小暁齊廣段長林山松濱大鉛織冠真一高熊一井大築ス光平松木段泉森秋齊吉川鈴玉未山井森部部田田津子津藤子手口部惠柴辺澤川橋下井敬倉藤中竹梨田田橋木戸橋谷系上池山野山さ田谷山村名木井田景優喜ひ紀節節芽伸千真由裏イ瑞莉恭美清晴弘秀愛裕恵和二尚道実千雅香玉司珠久晨泉花枝眞利ひ葉久祥ス瑛茉聰華ら由賢愛珠弘裕カ棕	☆☆	
		☆☆	
☆☆	山書和文名花若名光桜英若"華光嵐書山暉飯紅富若"船"大松照サ"瀬倭笠一静一秀華雅若右"華飯四高珠茅大"船小凜皓雅玄名愛之化東雪松丘東准準森二宮雪丘之愛美山竹士竹橋阪光代澤シ戸原葉葉雪初竹文雪田谷社悠野阪橋川心花樸東	☆☆	
		☆☆	
☆☆☆☆	大咲白三山村川中大文段田柏越齊鈴城增開白田清下旨皆出申中妹福宗井宮伴節吉伊中久伊佐吉武李段原小津鉢中校藤湯津峰後渡工流岩田森嶺松櫻川崎藤田島村津野中野川原藤木戸井辺水垣木川島口尾田玉上山野川藤村藤浦下奈口山木木烟井本田藤辺藤佐中田本茂凜き久純智郁芹彩未孤瑞裕東綾心真弥結衣惠滿美美惠静陽喜睦訓栄和友奈舟真道成恵直里碧由菜佳愛星華麻玉理恵恭弦田歩千渓夏文玲花水	☆☆☆☆	
		☆☆☆☆	
○○	龍北名華若石瀬"暁サ李優若大船"大右富游飯書名唯秀大千華東有若竹石硯瀬"北照サ優大船小高上和中さ千唯"久嵐光希"秀"府文東特雪松峯戸月光生宮阪橋二手文貴士墨山之東心雪阪曲特雪光穂松華峯戸府澤シ生阪橋平社尾勢わ曲心喜山丘望雪	○○	
		○○	
○○	堀森高級星佐中加唐稻保園大須岡笠穴刈伊藤澤濱岩游山閣小古原岩山級森ふ柳村柿鉢三安小細照杉宇落工鹿上長大浦村安今間川増古入鉢田平松長江詩須雄藤村藤木垣坂真島田本原井込藤田村名野崎戸野本田村下清み澤松沼木谷藤島田本田合藤島野谷森田山藤浪庭鍋賀江木沼松本井友音亮斗真直富曉昌優知瞳幸翠芽紗湖友美琴千楽真葉輝聰恵彩真糸石え夢美有捷理ら夢真好陽川良風未は淳厚直由裕久大も納幹天奈裕	○○	
		○○	
○○	成若若干有聖紅"茜"皓"秀東中珠"若船上若藏松"若東玄照"茅書"名龍"光暎石光秀光秀千飯美上霞"船珠乙照麗石綾若珠凛城松2竹由象竹花雪陽央悠宮橋尾竹代松光默澤野之東文丘華峯シ1雪丘雪曲山二尾墨橋悠訓澤墨峯	○○	
		○○	
○○	諫川級大青石山湯坂栗青水大中竹今井坂玉林北羽加北小梅美村東大森百真赤柳笠伊千石西小八浦ア級リ須稻吉西立大小大吉信永照門阪小絵三立関訪島井木田崎本田坪西澤國田本井万爪田藤村林智松岡場田瀬道堀岡野藤田葉林千野部川田見り澤川角林城野田瀬倉田沢梨沢川根内実涼直結理春愛果暉有千美芽真愛幹杏寿む生古匠楓秀子七胡照幸友陸景余翔誠小月暖代衣杏浩歩千め楽加地由凜舜陽和奈容千子一茉莉	○○	
		○○	
○○	竹玄小竹有玄名華練"光朝名"秀凛み国晴右大小優"北瀬石東葉華千華高秀勝凛"秀光"華湊"名秀皓紅國有富高"船石東華華5心平華象黙東4雪馬丘日東雪心な府美文阪先生府戸峯光月雪曲雪社雪木心雪3丘雪東雪花竹府象士社橋峯光雪	○○	
		○○	
○○	龜安森小愛五須級菊橋岩水秋竹冲川所小川嶋景石中海石大表石中高藤欄奥柴岸中羽小尾藤圃圓内中湯石許妙松柳林高芝近池奥坂菊佐大三畔井部康林永地本立野山内山口雅牧北原澤尾津橋嶋昇田谷野沢原山崎可沢貢坂崎原好道野西下戸馨下村澤さ橋景藤川田田竹宅柳七真子優麗福千麻雄明晴玲聖菜水玖由貫舞仙理若旬菱碧我夏理日和文る修純愛瑛早由美朱美ま彩亞恵怡仙千泰円え久泉節琴圭真幸健亞	○○	
		○○	
○○	浅自長絹若葉蘿文書蒼小葉草長大葉富汀若四正苑若干山秀"山"静大り山み静若美小北李石秀美玄有綾"大杉美千華名桜華間産野丘松月山化集巻光条隨月課野阪月貴松竹谷桂竹曲愛雪爱8"阪ん愛な翠竹二光府光峯7雪ニ心穂華阪二曲6雪東森雪	○○	
		○○	
○○	祥淡花酒象乘壺小紗雨菖小幅意敏い連酒手小孝順耕井今澄清宮寛瀧竹岩級吉静中千藤小伊柳星佐岩藤北級東掘小二戸小村小島吉級北大碧鈴井田真子優麗福千麻雄明晴玲聖菜水玖由貫舞仙理若旬菱碧我夏理日和文る修純愛瑛早由美朱美ま彩亞恵怡仙千泰円え久泉節琴圭真幸健亞	○○	
		○○	
○○	葉草長大葉富汀若四正苑若干山秀"山"静大り山み静若美小北李石秀美玄有綾"大杉美千華名桜華間産野丘松月山化集巻光条隨月課野阪月貴松竹谷桂竹曲愛雪爱8"阪ん愛な翠竹二光府光峯7雪ニ心穂華阪二曲6雪東森雪	○○	
		○○	
○○	祥淡花酒象乘壺小紗雨菖小幅意敏い連酒手小孝順耕井今澄清宮寛瀧竹岩級吉静中千藤小伊柳星佐岩藤北級東掘小二戸小村小島吉級北大碧鈴井田真子優麗福千麻雄明晴玲聖菜水玖由貫舞仙理若旬菱碧我夏理日和文る修純愛瑛早由美朱美ま彩亞恵怡仙千泰円え久泉節琴圭真幸健亞	○○	
		○○	
○○	練玄平静若覗"名有茅若照竹珠"硯小玄"伊"茅美石若名一上城若"巍"長硯白"巍玄"ア"巍玄大産大杉若小映桜尊玄静書茜晏"玄馬模成小翠松東虹野松澤華悠光樸奈野菜峯葉束絵の尾彩葉中小山野黙山シ山黙象吉阪竹光心森脇模集墨	○○	
		○○	
○○	津秋宮佐安安井中池脇落飯横小宇向岩才井森深谷真内石前莉谷佐清竹浜莉学雨緑皓恭光覗照直豊茜齊久琴松採貞光映涼秀小秀谿茜泰香春晶久田川六竹暗籠澤川上田合田田笠治戸井澤木上田端口道田原田形口藤田村田理井輝友結日清石鈴愛彩里恰原橋優桃美優結惠美心裡く光實子優詩波柑幸子香水分静心絆知典崎妙絆妙喜和修先淳菴シ駿岐に連れ幸佐博晴空友	○○	
		○○	
○○	"硯平上一"有山大"こ"凜愛茜み秀"こ"杜"凜大上山和新サ大平"名中大珠玄珠城覗映綾月美千"伊倭月"倭竹"山月平玄"平"成尾絵小虹愛象の心心な雪の会心象尾愛城シ象成東央阪紅黙紅彩心華菜曲奈華愛成模成	○○	
		○○	
○○	矢嶋中白荒大南武木坂石有本迫小石松清高渡蟻小森牧柳雨千郷多河石阿早川菊坂岡種遙山藤嶋安内三石吉上茂岩山松三原会林窪小林土佐山与島崎沢石木と四野保蔵村口村山間み林川尾田橋辺川林野原宮田農田野垣部川手池本村本岡山森戸原里林呂下口澤上山田桃田澤果井藤口那理花結陵ね里葵莉正七ひ美な干鼓舞凜樹美音杏利里美愛桃未成校実鑑あ太真さ香希さ祐舞貴彩明め千駿愛采里希姫深子紀葉歩和煌蒼城	○○	
		○○	
○○	準3特準準8特7準8特754準8特初特四七八△上中2八△級1段△下中上上初2段12段硬○薺新○☆硬○毛心竹支財栗小坂齊大鬼佐筆松西佐原大原鬼小追佐筆支村△部田林口部藤杉十藤中阪野雪杉小十野み藤阪△部柑建真千雅希帆友寧奈光英夏乃航晴友花な寧汎	美竹平杉"大若映平名"山綾こ縫こ一神上照平硯照練渚杉"神倭"若有菜華成阪松心成東愛華の絵奈尾澤成澤馬奈	
		松穗	
○○	角今小櫻三秋芦原羽野中森安富江藤矢薄渡廣田小宿三平岩坂池高掘新星横井田谷林田平原田口野川田芦井藤崎谷井部瀬中林谷沢居崎田谷堀野藤野菜咲彩う清佑眞七希香璃乃佳智権竜結まり実颯美颯拓み奈史宣彩空大成由涼	○○	
		○○	
○○	練有竹有山杉"さ玄有山"こ山"硯"平硯珠月竹"若凜和月宝倭新玄馬虹華虹愛月わ樸象愛の愛成紅華松心小春城樸わ	○○	
		○○	
○○	小渡銀伝末村伊房桐熊和庄新瀧櫻三源宮成依木坂小田牧"福飯大瀬宝姫和浜川邊田田瀬上得野生田田司澤口井浦閑駕田田下野代野一二永島平戸田野田野悠優特麻琉瓦夕瑚琴彩爽美優聯デヒ天遥優一麻啓袖京杏彩心季口来嬉蒼ひ	○○	
		○○	
○○	三準七"準特七準特8特7準特1特準7準四五準準準"準三四準五六準特8836433特762特初"3特準準"四五六準段7八段8待八△上1下4四△下1上三段段五八初二段段五段八待△飯下中中下上1上1下上1段中1初四段段六飯田	虹大佐薄海鈴柳鉢毛筆伊伊豆社小筆川山酒中木宮梨山小す小島渡赤木佐藤森松"筆支横川岩高村岩小白今棚棚佐横今北横安村上黒田上小黒支久藤井田木枝木賀△部藤村藤上口野V口崎井島村澤子岸幡夢野田辺澤村藤雪ひ永V部前本大松本林子村田田井村原前藤松田川中田林川部大保詩香あ理成慶光悠駿謙明真澤真翔萌時牡柚田あ美琪澤帆六季孔舞乃か朱羽蒼和悠蒼龍叶敢真未絢舞咲麻輝飄日春悠彩理沙美一	○○
		○○	

□は写真版(昇級しない)○は昇級(1階級昇級する)☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)











# 第36回 読壳書法展 一本格の輝き一

## 東京展

《第1会場》国立新美術館（東京・六本木）※27日(火)休館  
《第2会場》東京都美術館（東京・上野）

8月23日(金)～9月1日(日)  
8月23日(金)～8月29日(木)

【区分】茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・  
富山・石川・山梨・長野・静岡の各都県と海外在住者

## 関西展

《会 場》京都市勧業館「みやこめっせ」（京都市・岡崎公園）  
【区分】福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各府県

9月11日(水)～15日(日)

## 中国展

《会 場》広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」（福山市御幸町）  
【区分】鳥取・島根・岡山・広島の各県

9月27日(金)～29日(日)

## 四国展

《会 場》サンメッセ香川（高松市林町）  
【区分】徳島・香川・愛媛・高知の各県

10月18日(金)～20日(日)

## 東北展

《第1会場》山形美術館（山形市大手町）  
《第2会場》山形県芸文美術館（山形市七日町）

10月30日(木)～11月3日(日・祝)

【区分】青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の各県

## 北海道展

《会 場》札幌市民ギャラリー（札幌市中央区）  
【区分】北海道

11月20日(水)～24日(日)

## 中部展

《第1会場》愛知県美術館ギャラリー（名古屋市・栄）  
《第2会場》愛知県産業労働センター「ウインクあいち」（名古屋市・名駅）

11月27日(水)～12月1日(日)

【区分】岐阜・愛知・三重の各県

## 九州展

《会 場》福岡国際センター（福岡市博多区）  
【区分】山口・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の各県

12月6日(金)～8日(日)

## 書象会便り

### ◆第36回読壳書法展審査結果発表

七月二十五日、東京サンシャインシティでの審査員・審査部委員合同  
総会から約一週間、標記審査が行われました。本会からは、特別賞選考  
委員市澤静山先生、当番審査員として杉山暁雲先生、鈴木春鳳先生、山  
口啓山先生が大役を果たされ、多数の人賞、入選者を得ることができます  
でした。該当の皆様には心よりお祝い申し上げます。速報として入賞・入  
選者一覧を本紙26・27頁に掲載いたしました。

### ◆読壳書法展表彰式・祝賀懇親会

標記の表彰式・祝賀懇親会が、八月二十四日(土)十二時よりザ・プリン  
スパークタワー東京で開催されます。中央表彰式と東京展表彰式の後、  
祝賀懇親会が予定されています。奮ってご参加下さい。

### ◆読壳書法展東京展関連イベント

席上揮毫・篆刻会が八月二十五日(日)午後一時～三時、東京展実行委員  
(常任理事)によるギャラリートークが八月二十三日(金)、二十六日(月)、二  
十八日(火)～九月一日(日)に行われます。(以上国立新美術館) 東京都美術館  
のギャラリートークは八月二十三日(金)、二十六日(月)～二十九日(木)に行わ  
れます。本会からは、市澤静山先生が左記の通りギャラリートークをさ  
れます。皆さんご参考下さい。

△ギャラリートーク：市澤静山先生▽  
日 時 八月三十日(金) 午後一時～三時

### 会 場 国立新美術館

一A展示室

氏名	發行人	代 表	上 (有)	條 書	節	夫 象
印刷所	振替名義	株 式 會 社	（有）	東京都武藏野市吉祥寺北町四一三一六	郵便番号 180 0001	電話〇四三二(五三)九七四三
リン	クス	象	（有）	振替口座 ○○一九〇一七一五五六九一		